

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った  
参加型授業に関する実態調査 2016

第一次報告書

木村 充, 伊勢坊 綾, 小山田 建太, 田中 智輝, 村松 灯,  
山辺 恵理子, 中原 淳

2017年1月4日

東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室  
日本教育研究イノベーションセンター



# マナビラボ宣言

## ワクワクする学びを明日の教室に！

東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室と日本教育研究イノベーションセンターは、日本全国の高校で授業をなさっている先生方が、その授業をさらに「インタラクティブ」に、さらに「知的にワクワク」したものにするお手伝いをさせていただきたいと願い、「マナビラボ」プロジェクトを立ち上げました。

マナビラボプロジェクトでは、主に、下記の3つの活動にラボメンバー一同で従事しています。

1. 日本全国の高校のアクティブラーニングの実態を「見える化」するべく、モニタリング調査を行わせていただくこと
2. アクティブラーニングの視点に立った高校の先進的な授業実践事例を収集し、多くの人々に知っていただく機会をつくりだすこと
3. それらを Web、書籍、報告書などのメディアを用い、世に広く問い、アクティブ・ラーナーの育成に貢献すること

なお、マナビラボ立ち上げに際して、私たちは、下記の5つの信念を持っています。この5つの信念は、私たちが私たちがたる由縁であり、「マナビラボ宣言」と形容してもよいものです。

本書をしたためるにあたり、この宣言に立ち返ることをもって、私たちは自らのアイデンティティを確認します。

私たちの1つ目の信念は、アクティブラーニングを「新しいもの」とは「みなさない」という信念です。

活動を始めてからというもの、高校の先生方にも様々ヒアリングなどもさせていただきましたが、強く感じたのはアクティブラーニングという言葉に対する強い拒否感、あるいはやらされ感でした。多くの先生方が思っているのは「確かに新しいけれど、今までだってあったよね」というものです。

マナビラボでは、多くの心ある先生方がお取り組みになってきたアクティブラーニング的な授業を「再発見」し、多くの人々により知って頂くお手伝いをさせていただこうと思っております。

私たちは、アクティブラーニングを「新しいもの」とはみなしません。それは心ある教員の方々が、これまでも追求してきたものであり、かつ、今後の社会を生き抜く人材にとって重要な学習機会であると考えます。

2つ目の信念は、「私たちはパブリックをめざす」というものです。

昨今、巷では、アクティブラーニングが大きな流行とも言える状況になっているわけですが、それを「商業化」のチャンスとみなす人も少なくありません。海外で仕入れた「洋風の手法」を日本に適用し、それをもって現場を塗り替えることを企図するものもあります。

あるいは、これまで特定の手法で教育運動を主導してきた教育業界の運動主が、自らの運動に「アク

ティブラーニング」という新たなコーティングを施して、自分の教育運動を普及させたり、再活性化させたりしようとしているのを見て取れます。アクティブラーニングで「一旗揚げよう」という人もいないわけではありません。

私たちは、プロジェクトメンバーの誰一人として、アクティブラーニングの「専業の研究者」ではありません。マナビラボプロジェクトのメンバーは、人材開発研究をしている人、哲学研究をしている人など、多岐にわたります。

それぞれの立場から、新たな学びが高校に必要だと感じ、自らの研究のかたわら、この仕事をしています。私たちは、よりパブリックな立場から、アクティブラーニングを元気にするお手伝いをしたいと思います。

私たちは、これから生き抜く子どもたち、そして、そうした子どもたちと日々相對する先生方のために、パブリックな活動に従事します。

3つ目の信念は、これからの学びを考えるときの姿勢です。

これからの学びのあり方を議論する際には、教育機関だけを取り出して考えるのではなく、社会と教育機関とのつながりを考えて取り組むべきであると、私たちは信じています。

例えば、高校を変えていかなければならないというのは、大学入試、その先の大学での教育、さらにその先の社会と、トータルに考えていく必要があります。そして、そこでの移行を円滑に進めていくということを目的にする必要があります。

つまり、高校をひとりぼっちにしないということです。

私たちは、志ある高校の授業を、社会につなぐお手伝いをさせていただきます。社会の心ある人々は、教育現場で日々格闘なさっている先生方と、適切なかたちで出会い、願わくば協力をしたいと思っています。これまで、多くの教育運動は「教育の世界」の独自性を主張するあまり、「教育」と「教育以外」の世界の「境界」を強固にし、固定化してきました。私たちは、そうした視点を一切とりません。教育のあり方を、社会や仕事のあり方と接続して考えます。

4つ目の信念は、私たちは「見える化」にこだわるということです。

例えば、教育制度の決め方がいわゆる審議会・協議会方式になっていることに代表されるように、教育改革談義・議論というのは、どうしても印象論・理念論で進んでしまっています。私は、今あるものが「見える化」していないのに、それを適切に「変えること」はできないと思います。

「イメージ」できないものは「マネージ」できません。またイメージできないものは「達成」すらできないのです。なぜなら、「達成したかどうか」もわからないからです。

生産的な議論を起こしていくのは、数字であり事例です。私たちは、アクティブラーニングにまつわる数字や事例を「見える化」するお手伝いをします。

私たちは、印象論や理念論で教育や学習を語りません。しっかりとしたエビデンスに基づき、物事を語る姿勢を持ちます。

最後の5つ目は、私たちは「対話の素材」を現場の先生方に提供したいということです。

「現場を変えうる力」を持っているのは、私たちではありません。現場を本当に変えうる力を持っていらっしゃるの、日々現場に立っておられる先生方の献身的な努力です。しかし、これまでの教育運動は、現場で日々相對している人々を「エンパワーメント」するどころか、意欲を減退する方向で行われてきました。

私たちは「無力」です。

私たちに為しえるのは、現場の改善や日々の実践に邁進しておられる先生方が、日々の実践を振り返ったり、新たな物事を構想していくときに必要になる対話の素材を提供することです。

本報告書や本プロジェクトをすすめるにあたり、以上の事柄を、私たちは宣言いたします。

Learning is fun!

マナビラボプロジェクトを代表して  
中原 淳（東京大学・准教授）

## はじめに

本報告書は、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室 と 一般財団法人日本教育研究イノベーションセンター が、2016年7月から9月にかけて共同研究として実施した「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査2016」（以下、本調査）の調査概要および集計結果をまとめた、第一次報告書である。本調査では、アクティブラーニングと同義で「参加型学習」という言葉を用いている。

本研究プロジェクトでは、高等学校におけるアクティブラーニングの現状と変化、その要因を質問紙調査の方法で把握することを目的に、「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査」という縦断調査を実施している。本調査は、その一連の調査の2年目に当たるものである。1年目の調査は、普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校3,893校を対象に実施し、62.0%に当たる2,414校から回答をいただいた。2年目の調査は、1年目の調査回答校を対象に実施し、2015年度からの変化とその要因の把握を試みる。

本報告書は、2016年度の調査結果の一部を速報値としてとりまとめたものである。まだ分析の途中ではあるが、一部であってもできる限り早く結果を報告することを重視した。分析が進み次第、順次結果を公開する予定である。最終的な報告と本速報値がわずかにずれる可能性があり、その場合は最終報告書のデータを利用いただきたい。

本調査が可能となったのは、ご多忙な中で、本調査の趣旨を理解し、回答をお寄せくださった全国の高等学校の先生方の熱意とご協力による。この場をかりて、心から厚く感謝を申し上げたい。また、このたびの調査の趣旨をご理解いただき、さまざまな支援をいただいた一般財団法人日本教育研究イノベーションセンターの皆様にも心より感謝する。本当にありがとうございました。

多くの方々のご理解とご協力の賜物である本調査の結果が、今後の高等学校におけるアクティブラーニングの在り方を考える際の基礎資料として各方面で活用され、高等学校の学びの活性化や改善に寄与することを願う。

2017年1月4日

研究プロジェクトメンバー全員を代表して

東京大学大学総合教育研究センター 中原淳研究室  
准教授 中原淳（研究代表者）

## 調査結果の掲載・引用について

本報告書に掲載されている図版や調査結果の掲載や引用をご希望される場合には、ご自由に引用・転載していただいて構いません。また、引用・転載にあたっては、事前にご連絡をいただく必要はありませんが、必ず以下の【出典記載例】に則って、出典をご明記ください。

### 【出典記載例】

木村充, 伊勢坊綾, 小山田建太, 田中智輝, 村松灯, 山辺恵理子, 中原淳 (2017). 東京大学ー日本教育研究イノベーションセンター共同調査研究 高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査 2016: 第一次報告書. <http://manabilab.jp/wp/wp-content/uploads/2017/01/1streport.pdf>

## 目 次

マナビラボ宣言 .....	1
はじめに .....	5
調査結果の掲載・引用について.....	6
<b>1. 調査の概要.....</b>	<b>9</b>
1. 調査の概要.....	9
1.1. 調査の目的 .....	9
1.2. 調査の方法 .....	9
1.3. 調査時期 .....	9
1.4. 調査対象 .....	9
1.5. 回収数 .....	9
1.6. 調査項目 .....	10
2. 調査の目的.....	10
3. 調査の実施主体.....	11
4. 調査の対象.....	11
5. 調査の方法.....	11
6. 調査票の構成と内容.....	11
7. 回収率.....	12
<b>2. 調査の結果.....</b>	<b>15</b>
1. 回答者の基本属性.....	15
1.1. 設置者 .....	15
1.2. 回答者の教科主任着任時期 .....	15
2. 現在の参加型授業への取り組み状況.....	16
3. 今後の参加型授業への取り組み状況.....	18
4. 各科目における参加型授業への取り組み状況.....	19
4.1. 国語科の各科目における参加型授業への取り組み状況.....	19
4.2. 地歴・公民科の各科目における参加型授業への取り組み状況.....	22
4.3. 数学科の各科目における参加型授業への取り組み状況.....	25
4.4. 理科の各科目における参加型授業への取り組み状況.....	28
4.5. 外国語科の各科目における参加型授業への取り組み状況.....	33



5.	参加型学習の推進に向けた教科主任の働きかけ.....	37
6.	参加型学習の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけ.....	45
7.	効果の実感の変化.....	51
8.	悩みの変化.....	58
9.	組織文化.....	64
10.	校内研修.....	67
11.	参加型授業への学習環境の導入・活用状況.....	69
12.	効果の実感の変化と各変数との相関.....	73

# 1. 調査の概要

本章では、調査の目的や方法など、調査の概要について説明する。

## 1. 調査の概要

### 1.1. 調査の目的

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実態の把握

### 1.2. 調査の方法

郵送法による質問紙調査

### 1.3. 調査時期

2016年7月～9月

### 1.4. 調査対象

教科主任調査：全国の高等学校<sup>(注1)</sup>の各教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）の教科主任

教員調査：全国の高等学校でアクティブラーニングの視点に立った参加型授業を実施している教員

（注1）普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校のうち、「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査2015」に回答した学校（計2,414校）。

### 1.5. 回収数

回答学校数 1,794校 （対象校数 2,414校、回収率 74.3%）

---

・教科主任調査	8,680票 <sup>(注4)</sup>	（配布数 12,070票 <sup>(注2)</sup> 、回収率 71.9%）
・国語	1,749票	（配布数 2,414票、回収率 72.5%）
・地歴・公民	1,718票	（配布数 2,414票、回収率 71.2%）
・数学	1,751票	（配布数 2,414票、回収率 72.5%）
・理科	1,727票	（配布数 2,414票、回収率 71.5%）
・外国語	1,735票	（配布数 2,414票、回収率 71.9%）
・教員調査	7,328票	（配布数 12,070票 <sup>(注3)</sup> 、回収率 60.7%）
・国語	1,575票	（配布数 2,414票、回収率 65.2%）
・地歴・公民	1,456票	（配布数 2,414票、回収率 60.3%）
・数学	1,315票	（配布数 2,414票、回収率 54.5%）
・理科	1,442票	（配布数 2,414票、回収率 59.7%）
・外国語	1,540票	（配布数 2,414票、回収率 63.8%）

（注2）各学校に5部（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）配布。各教科の教科主任が回答。

（注3）各学校に5部（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）配布。各教科でアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に積極的に取り組んでいる教員1名が回答。

（注4）同一の教科から複数の回答があった場合、回収数の集計では1票と扱った。ただし、「2. 調査の結果」以降の分析ではすべての回答を採用し、有効回答と扱った。そのため、回収数と有効回答数が異なる場合がある。

## 1.6. 調査項目

### ・教科主任調査

教科での参加型学習の実施状況、科目別参加型学習の実施率、教科主任としての働きかけ、昨年からの効果の変化、昨年からの悩みの変化 など

### ・教員調査

参加型授業を実施した科目、学年、分野・テーマ、学習活動、授業の流れ、振り返りの活動、タイミング、頻度、使用教材、効果、効果判断の根拠 など

## 2. 調査の目的

「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査」は、1) 現在、未曾有のスピードで進行する大学改革—とりわけ円滑な高大接続を実現するための基礎資料として、現在の高校の教育実態を「大学」が学ぶこと、2) 学習指導要領の改訂をにらんで、現在進んでいる高等学校におけるアクティブラーニングの現状を可視化し、高等学校の関係者の方々に利用していただくことを目的に、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室 と 日本教育研究イノベーションセンター が共同で実施する縦断調査である。

大学改革の議論において、ここ数年、高大接続の重要性が指摘されている。変化の激しい現代社会を「生き抜く」若手層を育成するために、それぞれ個別に存在していた「高校の教育」と「大学の教育」を円滑に接続し、かつ総合的な思考力を見抜く大学入学者選抜を実現することが、社会的に要請されている。本調査は、こうした社会的背景を鑑み、高校の教育のリアルな実態を明らかにし、そこから大学が多くのことを学ぶために企図された。

一方、2014年11月に発表された中央教育審議会諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」をきっかけに、全国の高等学校においてアクティブラーニングの視点を取り入れた授業への取り組みが普及しはじめている。この諮問は、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の在り方について、育成すべき資質・能力をふまえた教育目標・内容の改善、アクティブラーニングの充実、学習評価の改善などを掲げたものである。新しい学習指導要領では、課題解決能力や主体的学習態度が重視されており、このような知識・技能、態度を身につけるためには、一方的に教師の講義を聴くだけの授業ではなく、生徒による議論や学び合い、発表などを組み込むなど、教育内容・方法の改善が不可欠である。一方、高校の教育の実態に関しては、それを正確に把握する手段がこれまで存在していなかった。本調査は、こうした社会的背景を後景とし、高校の教育改革、大学の教育改革、ひいては大学の選抜手法の改革に資する基礎的資料として、社会の多くの関係者に利用されることを願い、実施されたものである。

1年目となる2015年度の調査では、普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校3,893校を対象に実施し、62.0%に当たる2,414校から回答をいただき、2015年度における全国の高等学校におけるアクティブラーニングの実態把握を行った。2年目となる2016年度の調査では、1) 各教科におけるアクティブラーニングの実態をより詳細に把握すること、2) 2015年から1年間の参加型学習の実践状況の変化を把握すること、3) 参加型授業を促進する組織的要因を把握すること、を主な目的としている。より詳細には、1) 各高等学校の各教科において、アクティブラーニングの視点に立った参加型授業がどのように実施されているかを詳細に把握すること、2) 各高等学校の各教科において、2015年から2016年にかけてアクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実践状況にどのような変化があり、かつどのような課題が生じているかを把握すること、3) 各高等学校にお

いて、各教科主任の教員が、アクティブラーニングの促進をめざして教科の中でどのような行動をとり、かつ管理職に対してどのような上方影響力を行使しているかを把握すること、4) 各高等学校において、アクティブラーニングを促進する組織文化的要因を把握すること、を目的に、調査票の設計等を行った。

### 3. 調査の実施主体

本調査の実施主体は、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室 と 日本教育研究イノベーションセンター である。調査の方法、調査票の内容の検討などは、両者の協議によって行われた。

### 4. 調査の対象

本調査の対象は、「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査2015」に回答した全国の高等学校（計2,414校）である。「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査2015」の調査対象は、調査票配布時（2015年7月）に普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校（計3,893校）であった。

本調査では、一方的な知識伝達型の講義を聴くだけという受動的な学習を乗り越える意味でのアクティブラーニングに焦点を当てるため、実技や演習等の授業に力を入れてきたと考えられる実業学校は、対象から除外した。また、同様の理由で、6教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）以外の保健体育・芸術・家庭等の教科は対象から除外した。

### 5. 調査の方法

以上の手続きによって選定された調査対象の高等学校に対して、調査票を郵送した。本調査では、教科ごとの参加型授業への取り組みの実態、参加型授業に取り組んでいる教員のより具体的な取り組みの実態という2つの視点から実態を把握するため、教科ごとの調査票の中に、教科主任調査と教員調査の2種類の調査を織り込んだ。2016年7月1日に、調査票5部に加え、依頼状、返送用封筒を同封し、各高等学校に発送した。

回収作業は、2016年7月1日の調査開始から、調査票回収の最終締切り期限となった2016年9月16日まで継続された。

### 6. 調査票の構成と内容

調査票の基本的構成と内容は以下の通りである。

#### ○教科主任調査：

教科主任着任時期、教科での現在の参加型学習の実施状況、科目別参加型学習の実施率、教科での今後の参加型学習の実施状況、教科主任としての働きかけ、教科主任としての管理職への働きかけ、効果の変化、悩みの変化、組織文化、校内・校外研修、ICT導入・活用状況 など

#### ○教員調査：

参加型授業を実施した科目、学年、分野・テーマ、学習活動、授業の流れ、振り返りの活動、タイミング、頻度、使用教材、効果、効果判断の根拠 など

高等学校において広まりつつある「アクティブラーニング」という語は、人によって様々なイメージで捉えられていたり、特定の「授業の型」のようなイメージを持たれていたりすることが想定される。本調査では、そのイメージによって回答が偏ることを避けるため、各学校に調査を依頼するに当たり、調査票中ではアクティブラーニングという語の代わりに「参加型学習」という語を用いた。また、アクティブラーニングまたは参加型学習という語について、現在のところ統一された定義があるわけではなく、回答者によって思い浮かべるものが異なると考えられるため、本調査では参加型学習の定義として図1のような定義を示した。

本報告書では、このような参加型学習の視点を取り入れた授業のことを「アクティブラーニングの視点に立った参加型授業」または単に「参加型授業」という語を用いて表現することとした。従って、本報告書で「アクティブラーニング」または「アクティブラーニングの視点に立った参加型授業」という言葉を用いた場合、調査票では「参加型学習」という言葉を用いていたことになる。

本調査では、教員による一方向的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を総称して「参加型学習」と呼ぶこととします。

具体的には、以下の表に挙げたような手法を取り入れた学習を「参加型学習」と定義します。そして、これらの手法を取り入れた「参加型学習」を、全授業のうち1回でも実施した授業を調査の対象とします。

<u>意見発表・交換型</u> ： 議論や発表を通して、意見を交換・整理する形態	例えば ディベート、話し合い（ディスカッション）、 プレゼンテーション、ブレインストーミング など
<u>理解深化型</u> ： 自分の思考を客観的に振り返り、理解を深める形態	例えば 協調学習、学び合い、ふりかえり（リフレクション）、 自己による学習評価、作文 など
<u>課題解決型</u> ： 課題に対して解決策を提案、または実行する形態	例えば 課題解決型学習、ケーススタディ、探究・調べ学習、 プロジェクト型学習 など

※講義を一方向的に聞くだけの授業は、「参加型学習」には含みません。

※教科書の音読や輪読、挙手、一問一答式の発問に対する回答、プリントや問題集の解答、実験・実習・実技、見学、教材の視聴など、生徒が何らかの活動を行うものでも、生徒の思考が活性化しない場合には、本調査での「参加型学習」には含みません。

ただし、「意見発表・交換型」「理解深化型」「課題解決型」等の思考の活性化を伴うプロセスを含むものであれば、本調査での「参加型学習」に含めるものとします。

図1 参加型学習の定義

## 7. 回収率

本調査の対象となる高等学校は、普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校のうち、「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査2015」に回答した高等学校（計2,414校）である。すべて白紙であった調査票や重複して返送された調査票を除いた有効調査票数を整理した結果、有効な調査票を返送した高等学校の数は1,794校であった。教科主任調査・教員調査の教科別の配布数、回収数、回収率を表1に示した。また、都道府県別・設置者別の配布数、回収数、回収率を表2、表3に示した。

表1 教科別調査票配布・回収状況

項目		配布数	回収数	回収率
教科主任	国語	2,414	1,749	72.5%
	地歴・公民	2,414	1,718	71.2%
	数学	2,414	1,751	72.5%
	理科	2,414	1,727	71.5%
	外国語	2,414	1,735	71.9%
	合計	12,070	8,680	71.9%
教員	国語	2,414	1,575	65.2%
	地歴・公民	2,414	1,456	60.3%
	数学	2,414	1,315	54.5%
	理科	2,414	1,442	59.7%
	外国語	2,414	1,540	63.8%
	合計	12,070	7,328	60.7%

表2 都道府県別調査票配布・回収状況

都道府県	配布数	教科主任					教員					合計	回収率
		国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語		
北海道	162	113	108	111	109	108	102	89	85	97	94	114	70.4%
青森県	39	32	32	32	31	32	29	26	27	26	24	32	82.1%
岩手県	44	33	33	34	33	33	30	29	28	29	28	34	77.3%
宮城県	53	36	35	35	33	35	34	29	27	30	30	37	69.8%
秋田県	33	25	26	26	25	25	25	26	22	22	23	26	78.8%
山形県	28	24	24	23	24	23	23	23	18	21	22	24	85.7%
福島県	43	38	38	38	39	37	36	28	24	29	32	40	93.0%
茨城県	63	50	47	49	50	47	40	39	34	39	42	50	79.4%
栃木県	44	41	41	41	40	41	39	33	29	33	33	41	93.2%
群馬県	49	36	38	35	36	37	36	36	31	32	35	38	77.6%
埼玉県	97	66	63	67	65	66	55	52	43	48	56	68	70.1%
千葉県	103	71	70	71	70	72	62	67	40	54	64	72	69.9%
山梨県	28	20	20	20	20	20	19	18	19	20	20	20	71.4%
東京都	174	112	114	115	109	116	109	100	76	90	100	121	69.5%
神奈川県	111	74	74	76	75	73	67	64	65	63	70	77	69.4%
新潟県	52	38	37	37	37	37	32	23	26	27	27	38	73.1%
富山県	28	24	23	24	22	24	20	22	18	20	24	24	85.7%
石川県	25	20	19	21	21	21	20	18	20	20	20	21	84.0%
福井県	17	14	13	14	14	13	13	11	12	12	12	14	82.4%
長野県	65	44	45	45	44	44	41	33	28	33	42	47	72.3%
静岡県	84	65	65	65	63	65	60	60	54	60	58	65	77.4%
愛知県	122	89	86	91	90	90	72	73	69	72	84	92	75.4%
岐阜県	42	29	28	29	29	28	27	26	21	23	27	30	71.4%
三重県	38	32	30	33	32	32	28	25	27	30	29	33	86.8%
滋賀県	30	21	20	19	20	21	20	18	12	18	21	21	70.0%
京都府	50	32	30	33	32	33	28	25	20	26	29	33	66.0%
大阪府	111	71	70	70	70	71	62	50	44	55	60	72	64.9%
兵庫県	100	69	66	69	67	67	60	56	43	55	58	71	71.0%
奈良県	24	16	16	16	15	15	15	13	11	13	11	16	66.7%
和歌山県	13	10	10	10	10	9	9	9	8	7	8	10	76.9%
鳥取県	15	13	13	13	13	13	12	11	11	12	12	13	86.7%
島根県	20	17	17	17	17	16	16	17	16	16	14	17	85.0%
岡山県	36	26	25	26	25	25	23	20	21	21	22	27	75.0%
広島県	67	46	44	46	46	47	44	39	41	40	44	47	70.1%
山口県	32	25	25	25	25	25	22	19	15	20	23	25	78.1%
徳島県	17	12	13	11	12	12	11	11	9	12	11	13	76.5%
香川県	16	13	14	14	14	14	10	11	10	11	12	14	87.5%
愛媛県	32	25	24	25	24	24	24	21	20	22	22	25	78.1%
高知県	23	19	19	19	18	19	18	17	11	15	15	19	82.6%
福岡県	82	61	62	61	61	61	58	53	55	53	54	62	75.6%
佐賀県	18	12	13	13	13	13	7	8	10	10	12	13	72.2%
長崎県	35	23	23	23	23	23	20	18	16	18	19	23	65.7%
熊本県	27	22	21	23	21	22	19	18	21	17	18	23	85.2%
大分県	28	20	19	19	19	20	19	17	17	14	19	20	71.4%
宮崎県	21	16	15	16	16	15	13	11	15	13	14	16	76.2%
鹿児島県	42	31	28	29	31	29	24	24	25	25	25	32	76.2%
沖縄県	31	23	22	22	24	22	22	20	21	19	21	24	77.4%
合計	2,414	1,749	1,718	1,751	1,727	1,735	1,575	1,456	1,315	1,442	1,540	1,794	74.3%

表3 学校設置者別調査票配布・回収状況

設置者	配布数	教科主任					教員					合計	回収率
		国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語		
国立	9	7	6	8	8	7	7	6	7	7	7	8	88.9%
都道府県立	1,676	1,229	1,204	1,226	1,213	1,218	1,124	1,063	951	1,056	1,101	1,256	74.9%
その他公立	81	60	58	58	59	58	57	50	43	55	55	61	75.3%
私立	648	453	450	459	447	452	387	337	314	324	377	469	72.4%
合計	2,414	1,749	1,718	1,751	1,727	1,735	1,575	1,456	1,315	1,442	1,540	1,794	74.3%

74.3%という回収率は、昨年度と同様に、学校を対象とする調査の回収率としては際立って高い数字と言える。回答学校数は1,794校、回答者数はのべ16,021名と、高等学校におけるアクティブラーニングに関する縦断調査としては前例のない非常に大規模なものであり、多くの方々のご協力によりこのような調査を実施できたことは、大きな成果であった。

一方で、2015年・2016年と2年連続で調査票に回答した学校は、アクティブラーニングへの関心が高いなど、何らかの偏りがあると考えられる。回答数は多いとはいえ、結果を解釈する際には、一定のバイアスを伴う可能性があることに、慎重に配慮することが求められるだろう。

## 2. 調査の結果

本章では、速報値として、2016年12月31日時点の教科主任調査のデータを分析した結果を報告する。

### 1. 回答者の基本属性

「1. 調査の概要」で示したように、本調査の回答学校数は1,794校であり、回答者数は教科主任調査で8,680名、教員調査で7,328名であった。

本節では、回答した学校がどのような学校であったのか、その基本属性を示す。

#### 1.1. 設置者

調査回答校の学校設置者は、国立が8校、都道府県立が1,256校、市立が58校、町立が2校、組合立が1校、私立が469校であった。表3で示したように、学校の設置者による回収率の偏りはほぼない。

回答の全体の傾向を捉えやすくするため、分析の際には、市立・町立・組合立を合わせて「その他公立」に再分類した項目を用いる。

表4 学校の設置者

項目	度数	%
国立	8	0.4
都道府県立	1,256	70.0
市立	58	3.2
町立	2	0.1
組合立	1	0.1
私立	469	26.1
合計	1,794	100.0

#### 1.2. 回答者の教科主任着任時期

教科主任調査の回答者は、58.5%が2016年3月以前に着任した教科主任であり、41.5%が2016年4月以降に着任した教科主任であった。

本調査において参加型学習への取り組みの変化を尋ねる際、2016年3月以前に着任した場合には2015年9月～2016年8月の実績・計画について回答し、2016年4月以降に着任した場合には2016年4月～2016年8月の実績・計画について回答するように教示した。

表5 教科別回答者の教科主任着任時期

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
2016年3月以前	974	56.1	1,149	67.6	960	55.3	999	58.5	944	55.2	5,026	58.5
2016年4月以降	761	43.9	550	32.4	776	44.7	710	41.5	767	44.8	3,564	41.5
有効回答数	1,735	100.0	1,699	100.0	1,736	100.0	1,709	100.0	1,711	100.0	8,590	100.0
無効回答	1		0		0		0		0		1	
無回答	14		20		16		19		31		100	
合計	1,750		1,719		1,752		1,728		1,742		8,691	

(注) 教科主任調査の結果による。



## 2. 現在の参加型授業への取り組み状況

各教科での現在の参加型授業への取り組み状況は、「教科として組織的に取り組んでいるわけではないが、独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる」(70.7%)、「教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる」(14.9%)であった。組織的に、あるいは組織的にとまではいかないものの何らかの形で参加型学習に取り組んでいる教科が合わせて85.5%あった一方で、まったく取り組んでいないという教科も14.5%あった。

教科別に見ると、「教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる」のは外国語科が24.2%と、他の教科の10.5%~15.4%という取り組み状況に比べると多くなっていた。

「教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる」と回答した教科に対しては、その取り組み内容を尋ねた。その結果、「教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている」が60.0%で高い割合を示した。一方で、「教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている」(39.7%)、「教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している」(33.4%)という教科は低い割合に留まることがわかった。

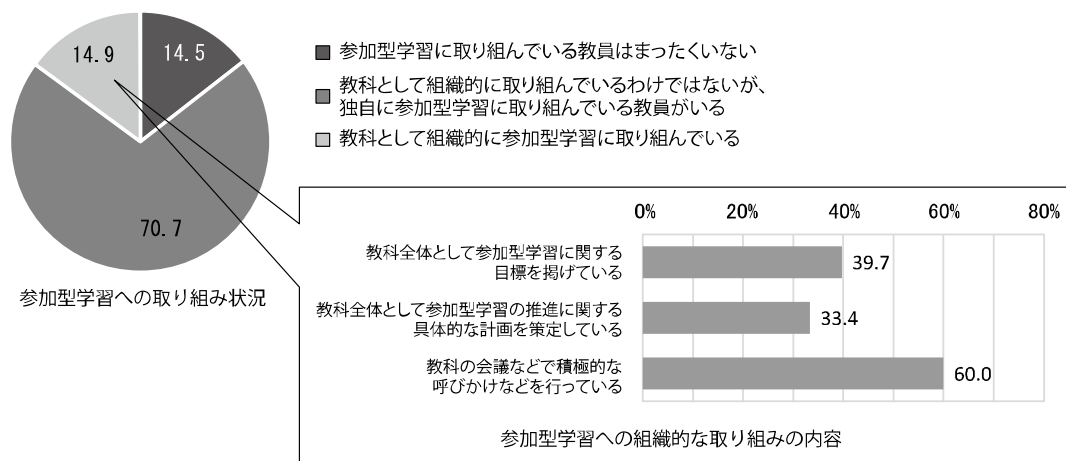


図2 現在の参加型学習への取り組み状況

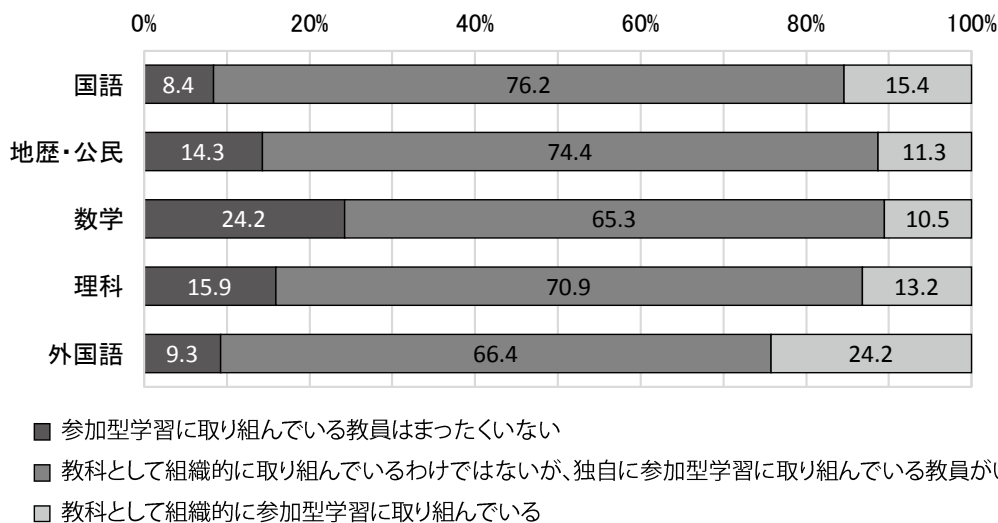


図3 教科別の現在の参加型学習への取り組み状況

表 6 教科別の現在の参加型学習への取り組み状況

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
参加型学習に取り組んでいる教員はまったくいない	140	8.4	235	14.3	412	24.2	263	15.9	151	9.3	1,201	14.5
教科として組織的に取り組んでいるわけではないが、独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる	1,269	76.2	1,226	74.4	1,114	65.3	1,177	70.9	1,075	66.4	5,861	70.7
教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる	257	15.4	186	11.3	179	10.5	219	13.2	392	24.2	1,233	14.9
有効回答数	1,666	100.0	1,647	100.0	1,705	100.0	1,659	100.0	1,618	100.0	8,295	100.0
無効回答	1		0		1		0		0		2	
無回答	83		72		46		69		124		394	
合計	1,750		1,719		1,752		1,728		1,742		8,691	

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。  
 2. 各教科での現在の参加型学習への取り組み状況について、「参加型学習に取り組んでいる教員はまったくいない」「教科として組織的に取り組んでいるわけではないが、独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる」「教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

表 7 現在の参加型学習への組織的な取り組みの内容

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている	79	32.2	79	45.9	53	32.5	97	45.5	160	41.6	468	39.7
教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している	78	31.8	51	29.7	40	24.5	72	33.8	153	39.7	394	33.4
教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている	158	64.5	110	64.0	106	65.0	113	53.1	220	57.1	707	60.0
有効回答数	245	100.0	172	100.0	163	100.0	213	100.0	385	100.0	1,178	100.0
非該当	1,409		1,461		1,526		1,440		1,226		7,062	
無回答	96		86		63		75		131		451	
合計	1,750		1,719		1,752		1,728		1,742		8,691	

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。  
 2. 各教科での現在の参加型学習への組織的な取り組みについて、「教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている」「教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している」「教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている」の選択肢から、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。  
 3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

### 3. 今後の参加型授業への取り組み状況

各教科での今後の参加型授業への取り組み状況は、「すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である」(22.4%)、「すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である」(25.2%)、「すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である」(0.3%)と、「すでに取り組んでいる」と回答した教科は全体の48.0%であった。昨年度の43.9%と比べると、約4%の増加となっている。

教科別に見ると、国語科が54.1%と最も高く、外国語科53.7%、理科51.0%、地歴・公民科46.6%、数学科34.5%と続いた。昨年度との比較では、数学科、理科で約8%と大きく増加した一方で、国語科、地歴・公民科、外国語科は約1~2%の増加に留まった。

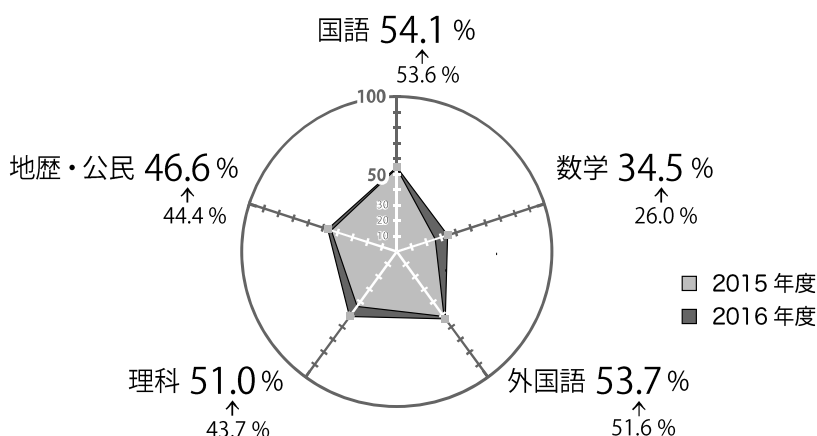


図4 教科別の参加型授業実施率と昨年度からの変化

表8 今後の参加型学習への取り組み状況

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
今後取り組む見込みはない	47	2.8	52	3.2	106	6.4	45	2.7	23	1.4	273	3.3
ここ数年間で取り組む予定はない	175	10.4	189	11.6	357	21.5	217	13.2	142	8.6	1,080	13.1
ここ数年間で取り組むことを検討している	518	30.9	584	35.8	599	36.0	503	30.7	539	32.6	2,743	33.2
ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である	29	1.7	46	2.8	27	1.6	38	2.3	61	3.7	201	2.4
すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である	4	0.2	5	0.3	4	0.2	7	0.4	3	0.2	23	0.3
すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である	488	29.1	406	24.9	290	17.4	455	27.8	446	27.0	2,085	25.2
すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である	416	24.8	348	21.3	280	16.8	373	22.8	437	26.5	1,854	22.4
有効回答数	1,677	100.0	1,630	100.0	1,663	100.0	1,638	100.0	1,651	100.0	8,259	100.0
無効回答	1		2		1		3		1		8	
無回答	72		87		88		87		91		425	
合計	1,750		1,719		1,752		1,728		1,743		8,692	

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 各教科での今後の参加型学習への取り組みについて、「今後取り組む見込みはない」「ここ数年間で取り組む予定はない」「ここ数年間で取り組むことを検討している」「ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である」「すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である」「すでに取り組んでおり、今後は維持していく予定である」「すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。

#### 4. 各科目における参加型授業への取り組み状況

各教科における科目別・学年別のアクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実施状況を表9～表41に示した。また、平均的な学校における実施率（中央値）を図5～図14に示した。

なお、実施率については、教科や科目によって本調査における参加型授業の定義の当てはまりやすさに違いがあるため、教科・科目間で単純に比較することはできず、データには解釈の余地があることに留意されたい。また、あくまで本調査における参加型授業の定義にあてはまると回答者が判断した授業の主観的な割合であることを付記しておく。

##### 4.1. 国語科の各科目における参加型授業への取り組み状況

国語科における参加型授業の実施率の中央値は、10～25%の科目が多く、いずれの科目においても多くの授業で参加型授業が実施されていた。特に、3年生時の国語表現では50～75%と、かなり高い実施率を示した。昨年度と比べると、1年生時の現代文A・B、3年生時の古典A・Bで実施率が伸びている。



(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 各科目で行われているすべての授業のうち「参加型学習」を取り入れた授業がどの程度の割合で実施されているかについて、「0%の授業で取り入れている（全く実施されていない）」「およそ10%未満の授業で取り入れている」「およそ10%以上25%未満の授業で取り入れている」「およそ25%以上50%未満の授業で取り入れている」「およそ50%以上75%未満の授業で取り入れている」「およそ75%以上の授業で取り入れている」「授業が設置されていない」の選択肢からあてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 括弧（ ）内は、授業を設置している学校の数を示している。

図5 2016年度の国語科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況



図6 2015年度の国語科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

表9 参加型授業の実施状況（国語総合）

国語総合	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	116	7.5	26	18.2	20	35.1
1~10%	302	19.5	36	25.2	17	29.8
10%~25%	386	24.9	43	30.1	11	19.3
25%~50%	290	18.7	13	9.1	4	7.0
50%~75%	324	20.9	16	11.2	2	3.5
75%~100%	131	8.5	9	6.3	3	5.3
有効回答数	1,549	100.0	143	100.0	57	100.0
授業が設置されていない	16		1,439		1,524	
無効回答	2		0		0	
無回答	183		168		169	
合計	1,750		1,750		1,750	

（注）教科主任調査の結果による。

表10 参加型授業の実施状況（国語表現）

国語表現	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	12	30.0	25	11.0	42	6.5
1~10%	7	17.5	22	9.6	48	7.4
10%~25%	5	12.5	34	14.9	76	11.7
25%~50%	3	7.5	40	17.5	122	18.9
50%~75%	9	22.5	45	19.7	174	26.9
75%~100%	4	10.0	62	27.2	185	28.6
有効回答数	40	100.0	228	100.0	647	100.0
授業が設置されていない	1,162		980		545	
無回答	548		542		558	
合計	1,750		1,750		1,750	

（注）教科主任調査の結果による。

表11 参加型授業の実施状況（現代文A・B）

現代文A・B	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	15	20.8	128	8.6	167	11.7
1~10%	20	27.8	316	21.3	343	24.1
10%~25%	18	25.0	378	25.5	360	25.3
25%~50%	6	8.3	278	18.7	235	16.5
50%~75%	9	12.5	274	18.5	220	15.5
75%~100%	4	5.6	110	7.4	97	6.8
有効回答数	72	100.0	1,484	100.0	1,422	100.0
授業が設置されていない	1,491		72		133	
無効回答	0		2		2	
無回答	187		192		193	
合計	1,750		1,750		1,750	

（注）教科主任調査の結果による。

表 12 参加型授業の実施状況（古典A・B 1年）

古典A・B	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	22	30.6	221	16.0	253	19.1
1~10%	22	30.6	351	25.4	342	25.9
10%~25%	15	20.8	316	22.8	300	22.7
25%~50%	5	6.9	207	15.0	174	13.2
50%~75%	5	6.9	208	15.0	173	13.1
75%~100%	3	4.2	81	5.9	81	6.1
有効回答数	72	100.0	1,384	100.0	1,323	100.0
授業が設置されていない	1,439		121		182	
無効回答	0		1		1	
無回答	239		244		244	
合計	1,750		1,750		1,750	

（注）教科主任調査の結果による。

#### 4.2. 地歴・公民科の各科目における参加型授業への取り組み状況

地歴・公民科における参加型授業の実施率の中央値は、どの科目でも全体的に1～10%であり、1年生時の現代社会において10～25%とやや高い割合を示した。前節で確認したように、教科としては46.6%と約半数の学校で実施しているが、その学校の中で実施している授業の割合としては、多くの科目で10%未満に留まっていることがわかった。

昨年度と比べると、中央値には実施率の変化は表れていない。とはいえ、どの科目においても「0%（実施されていない）」という割合は昨年度よりも減っており、参加型授業への取り組みは増えていると言える。

科目	1年	2年	3年
世界史A・B	1～10% (748)	1～10% (1,156)	1～10% (1,091)
日本史A・B	1～10% (279)	1～10% (1,298)	1～10% (1,289)
地理A・B	1～10% (333)	1～10% (1,014)	1～10% (1,061)
現代社会	10～25% (949)	1～10% (393)	1～10% (520)
倫理	1～10% (131)	1～10% (301)	1～10% (654)
政治経済	1～10% (136)	1～10% (338)	1～10% (1,078)

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 各科目で行われているすべての授業のうち「参加型学習」を取り入れた授業がどの程度の割合で実施されているかについて、「0%の授業で取り入れている（全く実施されていない）」「およそ10%未満の授業で取り入れている」「およそ10%以上25%未満の授業で取り入れている」「およそ25%以上50%未満の授業で取り入れている」「およそ50%以上75%未満の授業で取り入れている」「およそ75%以上の授業で取り入れている」「授業が設置されていない」の選択肢からあてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 括弧（ ）内は、授業を設置している学校の数を示している。

図7 2016年度の地歴・公民科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

科目	1年	2年	3年
世界史A・B	1～10% (992)	1～10% (1,590)	1～10% (1,440)
日本史A・B	1～10% (373)	1～10% (1,743)	1～10% (1,768)
地理A・B	1～10% (417)	1～10% (1,384)	1～10% (1,413)
現代社会	10～25% (1,244)	1～10% (508)	1～10% (706)
倫理	1～10% (153)	1～10% (388)	1～10% (905)
政治経済	1～10% (153)	1～10% (402)	1～10% (1,459)

図8 2015年度の地歴・公民科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

表 13 参加型授業の実施状況（世界史A・B）

世界史A・B	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	250	33.4	322	27.9	367	33.6
1~10%	194	25.9	302	26.1	311	28.5
10%~25%	125	16.7	226	19.6	174	15.9
25%~50%	72	9.6	136	11.8	118	10.8
50%~75%	66	8.8	103	8.9	70	6.4
75%~100%	41	5.5	67	5.8	51	4.7
有効回答数	748	100.0	1,156	100.0	1,091	100.0
授業が設置されていない	735		326		389	
無効回答	0		0		1	
無回答	236		237		238	
合計	1,719		1,719		1,719	

（注）教科主任調査の結果による。

表 14 参加型授業の実施状況（日本史A・B）

日本史A・B	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	106	38.0	359	27.7	412	32.0
1~10%	65	23.3	359	27.7	353	27.4
10%~25%	56	20.1	254	19.6	221	17.1
25%~50%	24	8.6	158	12.2	148	11.5
50%~75%	20	7.2	106	8.2	93	7.2
75%~100%	8	2.9	62	4.8	62	4.8
有効回答数	279	100.0	1,298	100.0	1,289	100.0
授業が設置されていない	1,182		159		169	
無回答	258		262		261	
合計	1,719		1,719		1,719	

（注）教科主任調査の結果による。

表 15 参加型授業の実施状況（地理A・B）

地理A・B	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	102	30.6	271	26.7	304	28.7
1~10%	81	24.3	262	25.8	278	26.2
10%~25%	56	16.8	185	18.2	188	17.7
25%~50%	53	15.9	128	12.6	137	12.9
50%~75%	25	7.5	92	9.1	77	7.3
75%~100%	16	4.8	76	7.5	77	7.3
有効回答数	333	100.0	1,014	100.0	1,061	100.0
授業が設置されていない	1,034		350		304	
無効回答	1		1		1	
無回答	351		354		353	
合計	1,719		1,719		1,719	

（注）教科主任調査の結果による。



表 16 参加型授業の実施状況（現代社会）

現代社会	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	171	18.0	101	25.7	125	24.0
1~10%	222	23.4	99	25.2	140	26.9
10%~25%	214	22.6	78	19.8	109	21.0
25%~50%	141	14.9	45	11.5	66	12.7
50%~75%	108	11.4	38	9.7	47	9.0
75%~100%	93	9.8	32	8.1	33	6.3
有効回答数	949	100.0	393	100.0	520	100.0
授業が設置されていない	485		1,043		917	
無回答	285		283		282	
合計	1,719		1,719		1,719	

（注）教科主任調査の結果による。

表 17 参加型授業の実施状況（倫理）

倫理	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	53	40.5	100	33.2	218	33.3
1~10%	32	24.4	73	24.3	184	28.1
10%~25%	18	13.7	45	15.0	89	13.6
25%~50%	16	12.2	30	10.0	65	9.9
50%~75%	6	4.6	27	9.0	45	6.9
75%~100%	6	4.6	26	8.6	53	8.1
有効回答数	131	100.0	301	100.0	654	100.0
授業が設置されていない	971		801		445	
無回答	617		617		620	
合計	1,719		1,719		1,719	

（注）教科主任調査の結果による。

表 18 参加型授業の実施状況（政治経済）

政治経済	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	52	38.2	106	31.4	289	26.8
1~10%	32	23.5	93	27.5	305	28.3
10%~25%	19	14.0	57	16.9	188	17.4
25%~50%	14	10.3	35	10.4	137	12.7
50%~75%	13	9.6	24	7.1	85	7.9
75%~100%	6	4.4	23	6.8	74	6.9
有効回答数	136	100.0	338	100.0	1,078	100.0
授業が設置されていない	1,196		989		245	
無回答	387		392		396	
合計	1,719		1,719		1,719	

（注）教科主任調査の結果による。

### 4.3. 数学科の各科目における参加型授業への取り組み状況

数学科における参加型授業の実施率の中央値は、ほとんどの科目で1～10%であり、3年生時の数学活用において10～25%とやや高かったものの、全体としては低い割合を示した。前節で確認したように、教科としては34.5%と約1/3の学校で実施されているが、その学校の中で実施している授業の割合としては、多くの科目で10%未満に留まっていることがわかった。

一方で、多くの科目で半数以上が「0%（実施されていない）」であった昨年度と比べると、1～10%である学校が増加しており、参加型授業への取り組みは着実に増加していると言える。



- (注) 1. 教科主任調査の結果による。  
 2. 各科目で行われているすべての授業のうち「参加型学習」を取り入れた授業がどの程度の割合で実施されているかについて、「0%の授業で取り入れている（全く実施されていない）」「およそ10%未満の授業で取り入れている」「およそ10%以上25%未満の授業で取り入れている」「およそ25%以上50%未満の授業で取り入れている」「およそ50%以上75%未満の授業で取り入れている」「およそ75%以上の授業で取り入れている」「授業が設置されていない」の選択肢からあてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。  
 3. 括弧（ ）内は、授業を設置している学校の数を示している。

図9 2016年度の数学科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

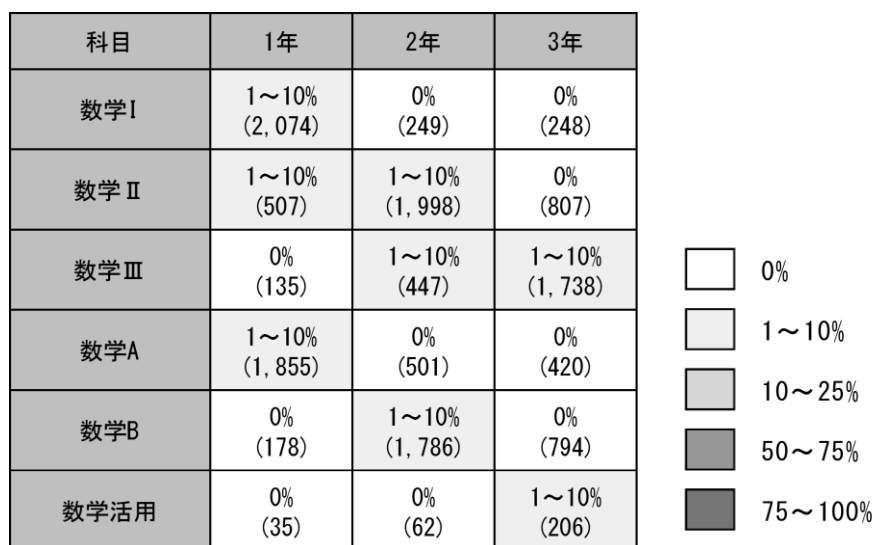


図10 2015年度の数学科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

表 19 参加型授業の実施状況（数学Ⅰ）

数学Ⅰ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	362	23.9	62	46.3	57	47.9
1~10%	400	26.4	28	20.9	24	20.2
10%~25%	287	19.0	21	15.7	12	10.1
25%~50%	174	11.5	7	5.2	7	5.9
50%~75%	190	12.5	7	5.2	10	8.4
75%~100%	101	6.7	9	6.7	9	7.6
有効回答数	1,514	100.0	134	100.0	119	100.0
授業が設置されていない	39		1,421		1,431	
無効回答	1		1		1	
無回答	198		196		201	
合計	1,752		1,752		1,752	

（注）教科主任調査の結果による。

表 20 参加型授業の実施状況（数学Ⅱ）

数学Ⅱ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	101	31.4	418	29.0	218	38.6
1~10%	81	25.2	364	25.3	131	23.2
10%~25%	56	17.4	271	18.8	82	14.5
25%~50%	33	10.2	166	11.5	52	9.2
50%~75%	30	9.3	138	9.6	49	8.7
75%~100%	21	6.5	84	5.8	33	5.8
有効回答数	322	100.0	1,441	100.0	565	100.0
授業が設置されていない	1,206		92		959	
無効回答	224		2		2	
無回答	1,752		217		226	
合計	1,752		1,752		1,752	

（注）教科主任調査の結果による。

表 21 参加型授業の実施状況（数学Ⅲ）

数学Ⅲ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	31	64.6	97	35.8	481	38.9
1~10%	6	12.5	69	25.5	300	24.2
10%~25%	5	10.4	37	13.7	148	12.0
25%~50%	2	4.2	33	12.2	107	8.6
50%~75%	1	2.1	20	7.4	103	8.3
75%~100%	3	6.3	15	5.5	99	8.0
有効回答数	48	100.0	271	100.0	1,238	100.0
授業が設置されていない	1,405		1,183		209	
無効回答	0		1		3	
無回答	299		297		302	
合計	1,752		1,752		1,752	

（注）教科主任調査の結果による。

表 22 参加型授業の実施状況（数学 A）

数学A	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	364	27.5	134	42.8	105	46.9
1~10%	330	24.9	60	19.2	43	19.2
10%~25%	243	18.4	46	14.7	25	11.2
25%~50%	155	11.7	27	8.6	16	7.1
50%~75%	146	11.0	24	7.7	21	9.4
75%~100%	86	6.5	22	7.0	14	6.3
有効回答数	1,324	100.0	313	100.0	224	100.0
授業が設置されていない	197		1,209		1,297	
無効回答	1		2		2	
無回答	230		228		229	
合計	1,752		1,752		1,752	

（注）教科主任調査の結果による。

表 23 参加型授業の実施状況（数学 B）

数学B	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	42	45.7	407	31.5	209	41.1
1~10%	20	21.7	316	24.5	113	22.2
10%~25%	12	13.0	217	16.8	67	13.2
25%~50%	10	10.9	151	11.7	38	7.5
50%~75%	3	3.3	116	9.0	43	8.5
75%~100%	5	5.4	84	6.5	38	7.5
有効回答数	92	100.0	1,291	100.0	508	100.0
授業が設置されていない	1,400		206		983	
無効回答			3		1	
無回答	260		252		260	
合計	1,752		1,752		1,752	

（注）教科主任調査の結果による。

表 24 参加型授業の実施状況（数学活用）

数学活用	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	7	41.2	12	34.3	43	31.2
1~10%	3	17.6	7	20.0	25	18.1
10%~25%	1	5.9	2	5.7	17	12.3
25%~50%	1	5.9	4	11.4	12	8.7
50%~75%	1	5.9	5	14.3	15	10.9
75%~100%	4	23.5	5	14.3	26	18.8
有効回答数	17	100.0	35	100.0	138	100.0
授業が設置されていない	1,036		1,018		914	
無回答	699		699		700	
合計	1,752		1,752		1,752	

（注）教科主任調査の結果による。

#### 4.4. 理科の各科目における参加型授業への取り組み状況

理科における参加型授業の実施率の中央値は、多くの科目で1～10%、あるいは10～25%であった。理科課題研究においては1年生時～3年生時まで75～100%、50～75%と非常に高い割合を示した。前節で確認したように、教科としては51.0%と約半数の学校で実施しているが、その学校の中で実施している授業の割合としては、多くの科目で25%未満に留まっていることがわかった。

昨年度とは質問時の科目の分け方が異なるため単純に比較することはできないが、昨年度と比べると10～25%という科目が増加しており、参加型授業への取り組みは増えていると言える。

科目	1年	2年	3年	科目	1年	2年	3年
科学と人間生活	1～10% (364)	1～10% (148)	1～10% (109)	地学基礎	1～10% (190)	1～10% (498)	1～10% (351)
物理基礎	1～10% (586)	10～25% (884)	1～10% (214)	地学	1～10% 10～25% (8)	10～25% (43)	10～25% (115)
物理	1～10% (30)	1～10% (794)	1～10% (1,242)	理科課題研究	75～100% (43)	75～100% (113)	50～75% (127)
化学基礎	10～25% (898)	1～10% (763)	1～10% (371)				
化学	1～10% (36)	10～25% (995)	1～10% (1,273)				
生物基礎	1～10% (937)	10～25% (782)	1～10% (438)				
生物	1～10% (43)	1～10% (868)	1～10% (1,303)				

0%  
1～10%  
10～25%  
50～75%  
75～100%

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 各科目で行われているすべての授業のうち「参加型学習」を取り入れた授業がどの程度の割合で実施されているかについて、「0%の授業で取り入れている（全く実施されていない）」「およそ10%未満の授業で取り入れている」「およそ10%以上25%未満の授業で取り入れている」「およそ25%以上50%未満の授業で取り入れている」「およそ50%以上75%未満の授業で取り入れている」「およそ75%以上の授業で取り入れている」「授業が設置されていない」の選択肢からあてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 括弧（ ）内は、授業を設置している学校の数を示している。

図 11 2016 年度の理科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

科目	1年	2年	3年
科学と人間生活	1～10% (500)	1～10% (226)	1～10% (188)
物理基礎・物理	1～10% (828)	1～10% (1,791)	1～10% (1,729)
化学基礎・化学	1～10% (1,302)	1～10% (1,810)	1～10% (1,783)
生物基礎・生物	1～10% (1,333)	1～10% (1,746)	1～10% (1,853)
地学基礎・地学	1～10% (299)	1～10% (713)	1～10% (701)
理科課題研究	75～100% (78)	75～100% (171)	75～100% (187)

0%  
1～10%  
10～25%  
50～75%  
75～100%

図 12 2015 年度の理科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

表 25 参加型授業の実施状況（科学と人間生活）

科学と人間生活	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	104	28.6	37	25.0	30	27.5
1~10%	86	23.6	41	27.7	25	22.9
10%~25%	76	20.9	21	14.2	15	13.8
25%~50%	42	11.5	22	14.9	18	16.5
50%~75%	29	8.0	16	10.8	12	11.0
75%~100%	27	7.4	11	7.4	9	8.3
有効回答数	364	100.0	148	100.0	109	100.0
授業が設置されていない	903		1,118		1,157	
無回答	461		462		462	
合計	1,728		1,728		1,728	

（注）教科主任調査の結果による。

表 26 参加型授業の実施状況（物理基礎）

物理基礎	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	151	25.8	207	23.4	79	36.9
1~10%	154	26.3	204	23.1	37	17.3
10%~25%	115	19.6	193	21.8	35	16.4
25%~50%	60	10.2	97	11.0	22	10.3
50%~75%	60	10.2	99	11.2	21	9.8
75%~100%	46	7.8	84	9.5	20	9.3
有効回答数	586	100.0	884	100.0	214	100.0
授業が設置されていない	902		609		1,276	
無効回答	1		0		0	
無回答	239		235		238	
合計	1,728		1,728		1,728	

（注）教科主任調査の結果による。

表 27 参加型授業の実施状況（物理）

物理	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	12	40.0	185	23.3	320	25.8
1~10%	6	20.0	221	27.8	318	25.6
10%~25%	3	10.0	153	19.3	244	19.6
25%~50%	4	13.3	89	11.2	148	11.9
50%~75%	4	13.3	79	9.9	110	8.9
75%~100%	1	3.3	67	8.4	102	8.2
有効回答数	30	100.0	794	100.0	1,242	100.0
授業が設置されていない	1,446		671		215	
無効回答	0		1		1	
無回答	252		262		270	
合計	1,728		1,728		1,728	

（注）教科主任調査の結果による。

表 28 参加型授業の実施状況（化学基礎）

化学基礎	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	224	24.9	191	25.0	130	35.0
1~10%	220	24.5	199	26.1	84	22.6
10%~25%	202	22.5	172	22.5	70	18.9
25%~50%	102	11.4	81	10.6	42	11.3
50%~75%	81	9.0	73	9.6	25	6.7
75%~100%	69	7.7	47	6.2	20	5.4
有効回答数	898	100.0	763	100.0	371	100.0
授業が設置されていない	611		750		1,145	
無効回答	0		2		0	
無回答	219		213		212	
合計	1,728		1,728		1,728	

（注）教科主任調査の結果による。

表 29 参加型授業の実施状況（化学）

化学	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	14	38.9	242	24.3	344	27.0
1~10%	7	19.4	245	24.6	311	24.4
10%~25%	4	11.1	223	22.4	286	22.5
25%~50%	6	16.7	125	12.6	138	10.8
50%~75%	3	8.3	83	8.3	90	7.1
75%~100%	2	5.6	77	7.7	104	8.2
有効回答数	36	100.0	995	100.0	1,273	100.0
授業が設置されていない	1,450		471		189	
無効回答			1		2	
無回答	242		261		264	
合計	1,728		1,728		1,728	

（注）教科主任調査の結果による。

表 30 参加型授業の実施状況（生物基礎）

生物基礎	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	224	23.9	175	22.4	137	31.3
1~10%	271	28.9	196	25.1	109	24.9
10%~25%	195	20.8	175	22.4	76	17.4
25%~50%	94	10.0	101	12.9	56	12.8
50%~75%	83	8.9	81	10.4	32	7.3
75%~100%	70	7.5	54	6.9	28	6.4
有効回答数	937	100.0	782	100.0	438	100.0
授業が設置されていない	566		733		1,076	
無効回答	1		0		0	
無回答	224		213		214	
合計	1,728		1,728		1,728	

（注）教科主任調査の結果による。

表 31 参加型授業の実施状況（生物）

生物	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	14	32.6	195	22.5	322	24.7
1~10%	8	18.6	259	29.8	346	26.6
10%~25%	9	20.9	180	20.7	277	21.3
25%~50%	4	9.3	90	10.4	143	11.0
50%~75%	4	9.3	75	8.6	102	7.8
75%~100%	4	9.3	69	7.9	113	8.7
有効回答数	43	100.0	868	100.0	1,303	100.0
授業が設置されていない	1,449		606		160	
無効回答	0		1		1	
無回答	236		253		264	
合計	1,728		1,728		1,728	

（注）教科主任調査の結果による。

表 32 参加型授業の実施状況（地学基礎）

地学基礎	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	46	24.2	125	25.1	110	31.3
1~10%	55	28.9	132	26.5	91	25.9
10%~25%	34	17.9	110	22.1	68	19.4
25%~50%	15	7.9	62	12.4	32	9.1
50%~75%	24	12.6	29	5.8	17	4.8
75%~100%	16	8.4	40	8.0	33	9.4
有効回答数	190	100.0	498	100.0	351	100.0
授業が設置されていない	971		736		845	
無回答	567		494		532	
合計	1,728		1,728		1,728	

（注）教科主任調査の結果による。

表 33 参加型授業の実施状況（地学）

地学	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	2	25.0	8	18.6	21	18.3
1~10%	2	25.0	10	23.3	27	23.5
10%~25%	2	25.0	10	23.3	32	27.8
25%~50%	0	0.0	6	14.0	13	11.3
50%~75%	1	12.5	3	7.0	12	10.4
75%~100%	1	12.5	6	14.0	10	8.7
有効回答数	8	100.0	43	100.0	115	100.0
授業が設置されていない	1,155		1,117		1,038	
無回答	565		568		575	
合計	1,728		1,728		1,728	

（注）教科主任調査の結果による。



表 34 参加型授業の実施状況（理科課題研究）

理科課題研究	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	3	7.0	5	4.4	13	10.2
1~10%	1	2.3	6	5.3	11	8.7
10%~25%	1	2.3	3	2.7	8	6.3
25%~50%	3	7.0	7	6.2	14	11.0
50%~75%	5	11.6	17	15.0	18	14.2
75%~100%	30	69.8	75	66.4	63	49.6
有効回答数	43	100.0	113	100.0	127	100.0
授業が設置されていない	1,102		1,030		1,012	
無回答	583		585		589	
合計	1,728		1,728		1,728	

（注）教科主任調査の結果による。

#### 4.5. 外国語科の各科目における参加型授業への取り組み状況

外国語科における参加型授業の実施率の中央値は、多くの授業で10～25%、あるいは25～50%と、かなり高い割合を示した。特に、英語会話においては1年生時～3年生時まで50～75%と非常に高い割合を示した。教科としては53.7%と半数以上の学校で実施されており、各学校の中でも多くの科目で参加型授業が実施されていることがわかった。

昨年度と比べると、1～10%という科目が減り、25～50%という科目が増えている。外国語科において、参加型授業への取り組みは昨年度よりも増えていると言える。

科目	1年	2年	3年
コミュニケーション英語基礎	10～25% (73)	10～25% (10)	10～25% (10)
コミュニケーション英語Ⅰ	25～50% (1,506)	10～25% (127)	10～25% (69)
コミュニケーション英語Ⅱ	25～50% (68)	25～50% (1,443)	10～25% (316)
コミュニケーション英語Ⅲ	10～25% (49)	25～50% (48)	10～25% (1,218)
英語表現Ⅰ	25～50% (1,076)	10～25% (313)	10～25% (223)
英語表現Ⅱ	25～50% (45)	25～50% (983)	10～25% (933)
英語会話	50～75% (176)	50～75% (197)	50～75% (356)

0%  
1～10%  
10～25%  
50～75%  
75～100%

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。  
 2. 各科目で行われているすべての授業のうち「参加型学習」を取り入れた授業がどの程度の割合で実施されているかについて、「0%の授業で取り入れている（全く実施されていない）」「およそ10%未満の授業で取り入れている」「およそ10%以上25%未満の授業で取り入れている」「およそ25%以上50%未満の授業で取り入れている」「およそ50%以上75%未満の授業で取り入れている」「およそ75%以上の授業で取り入れている」「授業が設置されていない」の選択肢からあてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。  
 3. 括弧（ ）内は、授業を設置している学校の数を示している。

図13 2016年度の外国語科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

科目	1年	2年	3年
コミュニケーション英語基礎	10～25% (125)	1～10% (22)	1～10% (22)
コミュニケーション英語Ⅰ	25～50% (2,120)	10～25% (247)	10～25% (161)
コミュニケーション英語Ⅱ	1～10% (154)	10～25% (2074)	10～25% (530)
コミュニケーション英語Ⅲ	1～10% (121)	1～10% (130)	10～25% (1,781)
英語表現Ⅰ	10～25% (1,563)	10～25% (566)	10～25% (386)
英語表現Ⅱ	1～10% (134)	10～25% (1,386)	10～25% (1,346)
英語会話	50～75% (255)	50～75% (311)	50～75% (525)

0%  
1～10%  
10～25%  
50～75%  
75～100%

図14 2015年度の外国語科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

表 35 参加型授業の実施状況（コミュニケーション英語基礎）

コミュニケーション英語基礎	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	9	12.3	2	20.0	3	30.0
1~10%	19	26.0	0	0.0	1	10.0
10%~25%	17	23.3	4	40.0	3	30.0
25%~50%	12	16.4	2	20.0	2	20.0
50%~75%	12	16.4	2	20.0	1	10.0
75%~100%	4	5.5	0	0.0	0	0.0
有効回答数	73	100.0	10	100.0	10	100.0
授業が設置されていない	751		815		816	
無回答	918		917		916	
合計	1,742		1,742		1,742	

（注）教科主任調査の結果による。

表 36 参加型授業の実施状況（コミュニケーション英語Ⅰ）

コミュニケーション英語Ⅰ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	104	6.9	16	12.6	6	8.7
1~10%	186	12.4	28	22.0	14	20.3
10%~25%	338	22.4	28	22.0	19	27.5
25%~50%	332	22.0	18	14.2	10	14.5
50%~75%	375	24.9	26	20.5	13	18.8
75%~100%	171	11.4	11	8.7	7	10.1
有効回答数	1,506	100.0	127	100.0	69	100.0
授業が設置されていない	40		1,422		1,482	
無効回答	2		0		1	
無回答	194		193		190	
合計	1,742		1,742		1,742	

（注）教科主任調査の結果による。

表 37 参加型授業の実施状況（コミュニケーション英語Ⅱ）

コミュニケーション英語Ⅱ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	5	7.4	108	7.5	49	15.5
1~10%	10	14.7	197	13.7	56	17.7
10%~25%	16	23.5	340	23.6	66	20.9
25%~50%	13	19.1	317	22.0	65	20.6
50%~75%	19	27.9	334	23.1	60	19.0
75%~100%	5	7.4	147	10.2	20	6.3
有効回答数	68	100.0	1,443	100.0	316	100.0
授業が設置されていない	1,453		73		1,205	
無効回答	1		1		0	
無回答	220		225		221	
合計	1,742		1,742		1,742	

（注）教科主任調査の結果による。

表 38 参加型授業の実施状況（コミュニケーション英語Ⅲ）

コミュニケーション英語Ⅲ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	5	10.2	8	16.7	142	11.7
1~10%	10	20.4	7	14.6	258	21.2
10%~25%	10	20.4	8	16.7	277	22.7
25%~50%	11	22.4	10	20.8	228	18.7
50%~75%	10	20.4	9	18.8	212	17.4
75%~100%	3	6.1	6	12.5	101	8.3
有効回答数	49	100.0	48	100.0	1,218	100.0
授業が設置されていない	1,347		1,347		166	
無効回答	0		0		3	
無回答	346		347		355	
合計	1,742		1,742		1,742	

（注）教科主任調査の結果による。

表 39 参加型授業の実施状況（英語表現Ⅰ）

英語表現Ⅰ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	93	8.6	41	13.1	34	15.2
1~10%	178	16.5	51	16.3	37	16.6
10%~25%	225	20.9	68	21.7	48	21.5
25%~50%	204	19.0	57	18.2	35	15.7
50%~75%	250	23.2	67	21.4	44	19.7
75%~100%	126	11.7	29	9.3	25	11.2
有効回答数	1,076	100.0	313	100.0	223	100.0
授業が設置されていない	365		1,130		1,220	
無効回答	1		0		0	
無回答	300		299		299	
合計	1,742		1,742		1,742	

（注）教科主任調査の結果による。

表 40 参加型授業の実施状況（英語表現Ⅱ）

英語表現Ⅱ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	4	8.9	99	10.1	125	13.4
1~10%	9	20.0	185	18.8	199	21.3
10%~25%	8	17.8	199	20.2	211	22.6
25%~50%	7	15.6	207	21.1	164	17.6
50%~75%	13	28.9	205	20.9	154	16.5
75%~100%	4	8.9	88	9.0	80	8.6
有効回答数	45	100.0	983	100.0	933	100.0
授業が設置されていない	1,321		381		419	
無効回答	0		1		1	
無回答	376		377		389	
合計	1,742		1,742		1,742	

（注）教科主任調査の結果による。

表 41 参加型授業の実施状況（英語会話）

英語会話	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	9	5.1	16	8.1	21	5.9
1~10%	9	5.1	14	7.1	27	7.6
10%~25%	11	6.3	16	8.1	26	7.3
25%~50%	22	12.5	26	13.2	55	15.4
50%~75%	58	33.0	59	29.9	94	26.4
75%~100%	67	38.1	66	33.5	133	37.4
有効回答数	176	100.0	197	100.0	356	100.0
授業が設置されていない	861		838		675	
無効回答	0		1		1	
無回答	705		706		710	
合計	1,742		1,742		1,742	

（注）教科主任調査の結果による。

## 5. 参加型学習の推進に向けた教科主任の働きかけ

本調査では、参加型学習を推進する際の教科主任の役割を明らかにすることを目的の1つとしている。そこで、参加型学習の推進に向けて教科主任としてどのような働きかけをしているか、22項目の質問について「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。5段階のリッカート尺度とみなして回答を1～5点で得点化し、集計を行った。

その結果、「教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている」（ $M=4.10, SD=0.865$ ）、「各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている」（ $M=3.75, SD=1.004$ ）、「教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている」（ $M=3.73, SD=0.978$ ）などの働きかけが上位であった。一方、「校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている」（ $M=2.51, SD=1.21$ ）、「各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している」（ $M=2.40, SD=1.161$ ）、「教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している」（ $M=2.16, SD=1.232$ ）などの働きかけが下位であった。

因子分析の結果、これらの教科主任の働きかけは、「AL（アクティブラーニング）方針の明確化」「ALへの動機づけ」「教科でのチームづくり」「ALの質の点検」「学習機会の支援」「役職を越えた教師間コミュニケーション」の6つに大きく分類できた。（いずれの因子にも含まれなかった「教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている」の項目は「教員同士の授業実践の公開」という独自の分類を設けた。）

教科別に見ると、分散分析の結果、教科の違いによって教科主任の働きかけは大きく異ならなかった。（「AL 方針の明確化」で  $F(4,1361)=5.765, p<0.001, \eta^2=0.017$ 、「AL への動機づけ」で  $F(4,1341)=4.601, p<0.01, \eta^2=0.014$ 、「教科でのチームづくり」で  $F(4,1348)=7.22, p<0.001, \eta^2=0.021$ 、「AL の質の点検」で  $F(4,1355)=4.67, p<0.01, \eta^2=0.014$ 、「学習機会の支援」で  $F(4,1353)=1.85, n.s., \eta^2=0.005$ 、「役職を越えた教師間コミュニケーション」で  $F(4,1361)=2.134, n.s., \eta^2=0.006$ 、「教員同士の授業実践の公開」で  $F(4,1362)=2.231, n.s., \eta^2=0.007$ ）従って、アクティブラーニングの推進に向けた教科主任の働きかけに、教科による差はほとんどないと言える。

なお、文中の  $M$  は平均値、 $SD$  は標準偏差、 $F$  は分散分析の統計量  $F$  値、 $p$  は有意確率、 $n.s.$  は統計的に5%水準で非有意（not significant）であること、 $\eta^2$  は効果量の値を示す。

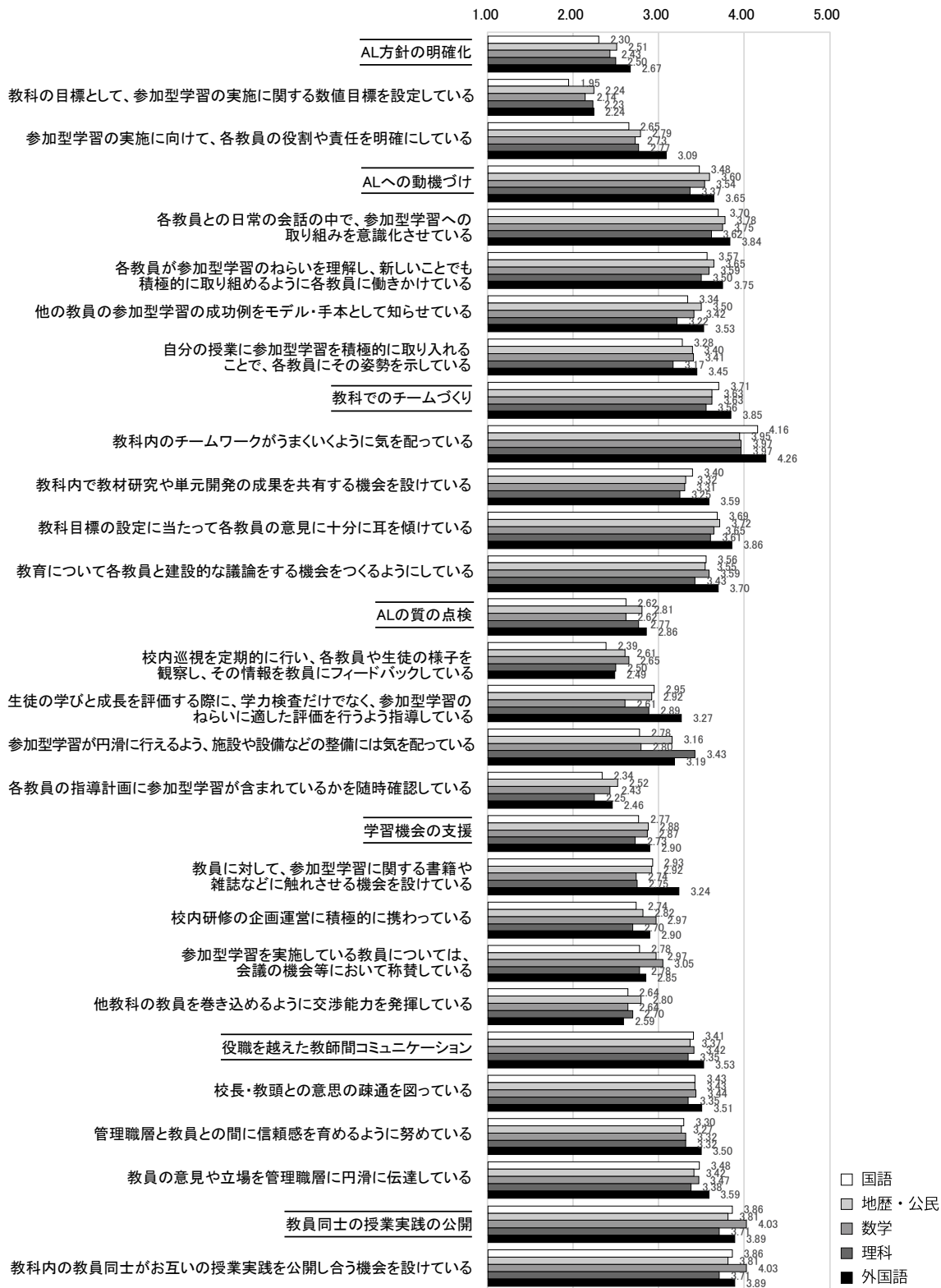


図 15 参加型学習の推進に向けた教科主任の働きかけ

表 42 参加型学習の推進に向けた教科主任の働きかけ

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
<b>AL方針の明確化</b>						
教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	1,369	2.16	1.232	7,062	260	8,691
参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	1,367	2.85	1.271	7,062	262	8,691
<b>ALへの動機づけ</b>						
各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	1,361	3.75	1.004	7,062	268	8,691
各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	1,364	3.63	1.032	7,062	265	8,691
他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	1,362	3.42	1.169	7,062	267	8,691
自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	1,366	3.35	1.145	7,062	263	8,691
<b>教科でのチームづくり</b>						
教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	1,363	4.10	0.865	7,062	266	8,691
教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	1,366	3.41	1.150	7,062	263	8,691
教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	1,363	3.73	0.978	7,062	266	8,691
教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	1,366	3.59	0.987	7,062	263	8,691
<b>ALの質の点検</b>						
校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	1,367	2.51	1.210	7,062	262	8,691
生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	1,366	2.99	1.210	7,062	263	8,691
参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	1,365	3.09	1.186	7,062	264	8,691
各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	1,367	2.40	1.161	7,062	262	8,691
<b>学習機会の支援</b>						
教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	1,368	2.98	1.218	7,062	261	8,691
校内研修の企画運営に積極的に携わっている	1,367	2.83	1.270	7,062	262	8,691
参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	1,368	2.87	1.243	7,062	261	8,691
他教科の教員を巻き込むように交渉能力を発揮している	1,364	2.66	1.087	7,062	265	8,691
<b>役職を越えた教師間コミュニケーション</b>						
校長・教頭との意思の疎通図っている	1,369	3.44	1.113	7,062	260	8,691
管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	1,368	3.37	1.031	7,062	261	8,691
教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	1,368	3.49	0.986	7,062	261	8,691
<b>教員同士の授業実践の公開</b>						
教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	1,367	3.86	1.149	7,062	262	8,691



続き

項目	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
<b>AL方針の明確化</b>					
教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	72	168	234	334	561
参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	132	341	356	261	277
<b>ALへの動機づけ</b>					
各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	293	647	267	98	56
各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	246	619	322	105	72
他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	232	508	348	145	129
自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	225	432	421	175	113
<b>教科でのチームづくり</b>					
教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	484	610	216	29	24
教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	223	511	354	160	118
教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	275	629	335	65	59
教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	214	592	405	90	65
<b>ALの質の点検</b>					
校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	68	257	347	327	368
生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	122	418	365	250	211
参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	130	444	394	208	189
各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	43	226	369	328	401
<b>学習機会の支援</b>					
教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	130	389	386	244	219
校内研修の企画運営に積極的に携わっている	148	287	389	269	274
参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	128	320	434	213	273
他教科の教員を巻き込めるように交渉能力を発揮している	48	249	514	294	259
<b>役職を越えた教師間コミュニケーション</b>					
校長・教頭との意思の疎通図っている	233	487	403	146	100
管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	167	476	509	124	92
教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	177	553	474	88	76
<b>教員同士の授業実践の公開</b>					
教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	477	482	236	86	86

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。
2. 参加型学習の推進に向けた教科主任の働きかけについて、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
  3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
  4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 43 教科別の参加型学習の推進に向けた教科主任の働きかけ

項目	国語			地歴・公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
AL方針の明確化	285	2.30	1.059	206	2.51	1.027	187	2.43	0.992
教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	286	1.95	1.197	207	2.24	1.317	188	2.14	1.154
参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	285	2.65	1.283	206	2.79	1.215	187	2.73	1.271
ALへの動機づけ	281	3.48	0.902	203	3.60	0.791	186	3.54	0.905
各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	285	3.70	1.062	206	3.78	0.930	186	3.75	0.999
各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	284	3.57	1.046	207	3.65	0.983	187	3.59	1.066
他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	284	3.34	1.227	206	3.50	1.039	187	3.42	1.217
自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	286	3.28	1.178	205	3.40	1.110	187	3.41	1.172
教科でのチームづくり	279	3.71	0.776	205	3.63	0.686	186	3.63	0.786
教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	283	4.16	0.829	205	3.95	0.873	187	3.97	0.921
教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	284	3.40	1.166	206	3.32	1.092	187	3.31	1.231
教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	285	3.69	1.015	206	3.72	0.914	186	3.65	1.019
教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	285	3.56	1.055	207	3.55	0.917	187	3.59	0.976
ALの質の点検	284	2.62	0.824	206	2.81	0.856	186	2.62	0.878
校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	285	2.39	1.180	207	2.61	1.185	187	2.65	1.271
生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	285	2.95	1.153	206	2.92	1.180	187	2.61	1.219
参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	284	2.78	1.184	207	3.16	1.169	187	2.80	1.205
各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	285	2.34	1.159	207	2.52	1.153	187	2.43	1.126
学習機会の支援	284	2.77	0.887	207	2.88	0.903	184	2.87	0.967
教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	286	2.93	1.184	207	2.92	1.212	186	2.74	1.289
校内研修の企画運営に積極的に携わっている	285	2.74	1.234	207	2.82	1.268	187	2.97	1.360
参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	286	2.78	1.288	207	2.97	1.208	187	3.05	1.260
他教科の教員を巻き込むように交渉能力を発揮している	285	2.64	1.048	207	2.80	1.037	187	2.64	1.198
役職を越えた教師間コミュニケーション	285	3.41	0.915	207	3.37	0.913	186	3.42	0.997
校長・教頭との意思の疎通図っている	286	3.43	1.099	207	3.43	1.072	187	3.44	1.173
管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	286	3.30	1.037	207	3.27	1.007	187	3.32	1.142
教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	285	3.48	1.019	207	3.42	0.956	187	3.47	1.069
教員同士の授業実践の公開									
教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	285	3.86	1.174	206	3.81	1.090	187	4.03	1.159

続き

項目	理科			外国語			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
AL方針の明確化	240	2.50	1.087	448	2.67	1.033	1,366	2.50	1.049
教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	240	2.23	1.268	448	2.24	1.216	1,369	2.16	1.232
参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	240	2.77	1.329	449	3.09	1.223	1,367	2.85	1.271
ALへの動機づけ	238	3.37	0.939	438	3.65	0.826	1,346	3.54	0.874
各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	239	3.62	1.074	445	3.84	0.957	1,361	3.75	1.004
各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	239	3.50	1.065	447	3.75	1.003	1,364	3.63	1.032
他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	240	3.22	1.187	445	3.53	1.144	1,362	3.42	1.169
自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	240	3.17	1.231	448	3.45	1.069	1,366	3.35	1.145
教科でのチームづくり	238	3.56	0.806	445	3.85	0.704	1,353	3.71	0.754
教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	239	3.97	0.948	449	4.26	0.780	1,363	4.10	0.865
教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	240	3.25	1.137	449	3.59	1.119	1,366	3.41	1.150
教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	239	3.61	0.976	447	3.86	0.955	1,363	3.73	0.978
教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	240	3.43	1.032	447	3.70	0.943	1,366	3.59	0.987
ALの質の点検	239	2.77	0.830	445	2.86	0.877	1,360	2.75	0.860
校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	240	2.50	1.143	448	2.49	1.244	1,367	2.51	1.210
生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	240	2.89	1.189	448	3.27	1.213	1,366	2.99	1.210
参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	239	3.43	1.086	448	3.19	1.172	1,365	3.09	1.186
各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	240	2.25	1.091	448	2.46	1.209	1,367	2.40	1.161
学習機会の支援	238	2.73	0.902	445	2.90	0.889	1,358	2.84	0.905
教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	240	2.75	1.238	449	3.24	1.154	1,368	2.98	1.218
校内研修の企画運営に積極的に携わっている	240	2.70	1.235	448	2.90	1.270	1,367	2.83	1.270
参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	240	2.78	1.213	448	2.85	1.232	1,368	2.87	1.243
他教科の教員を巻き込めるように交渉能力を発揮している	238	2.70	1.129	447	2.59	1.061	1,364	2.66	1.087
役職を越えた教師間コミュニケーション	240	3.35	0.908	448	3.53	0.877	1,366	3.43	0.914
校長・教頭との意思の疎通図っている	240	3.35	1.117	449	3.51	1.114	1,369	3.44	1.113
管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	240	3.32	0.990	448	3.50	1.001	1,368	3.37	1.031
教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	240	3.38	0.999	449	3.59	0.927	1,368	3.49	0.986
教員同士の授業実践の公開									
教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	240	3.71	1.198	449	3.89	1.123	1,367	3.86	1.149

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。
2. 参加型学習の推進に向けた教科主任の働きかけについて、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
  3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
  4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

## 6. 参加型学習の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけ

参加型学習の推進に向けて教科主任として管理職にどのような働きかけをしているか、16項目の質問について「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。5段階のリッカート尺度とみなして回答を1～5点で得点化し、集計を行った。

その結果、「校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした」（ $M=2.51, SD=1.393$ ）、「関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした」（ $M=2.23, SD=1.319$ ）、「校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした」（ $M=2.23, SD=1.288$ ）などの働きかけが上位であった。一方、「補助金や助成金を獲得するようお願いした」（ $M=1.91, SD=1.196$ ）、「PTA や自治体との意思疎通を図るようお願いした」（ $M=1.81, SD=1.029$ ）、「補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした」（ $M=1.79, SD=1.239$ ）などの働きかけが下位であった。

因子分析の結果、これらの管理職への働きかけは、「校外リソース獲得の促進」「AL への組織的取組の促進」「学校のビジョン共有の促進」「指導に関する参考資料収集の促進」「教師の仕事スリム化の促進」「校内での教師間連携の促進」「校外での学習の促進」の7つに大きく分類できた。

教科別に見ると、分散分析の結果、教科の違いによって教科主任の管理職への働きかけは大きく異ならなかった。（「校外リソース獲得の促進」で  $F(4,1346)=15.742, p<0.001, \eta^2=0.045$ ）、「AL への組織的取組の促進」で  $F(4,1343)=2.569, p<0.05, \eta^2=0.008$ 、「学校のビジョン共有の促進」で  $F(4,1335)=3.044, p<0.05, \eta^2=0.009$ 、「指導に関する参考資料収集の促進」で  $F(4,1342)=1.261, n.s., \eta^2=0.004$ 、「教師の仕事スリム化の促進」で  $F(4,1344)=1.499, n.s., \eta^2=0.004$ 、「校内での教師間連携の促進」で  $F(4,1348)=2.238, n.s., \eta^2=0.007$ 、「校外での学習の促進」で  $F(4,1338)=6.023, p<0.001, \eta^2=0.018$ ）従って、アクティブラーニングの推進に向けた教科主任の管理職への働きかけに、教科による差はほとんどないと言える。

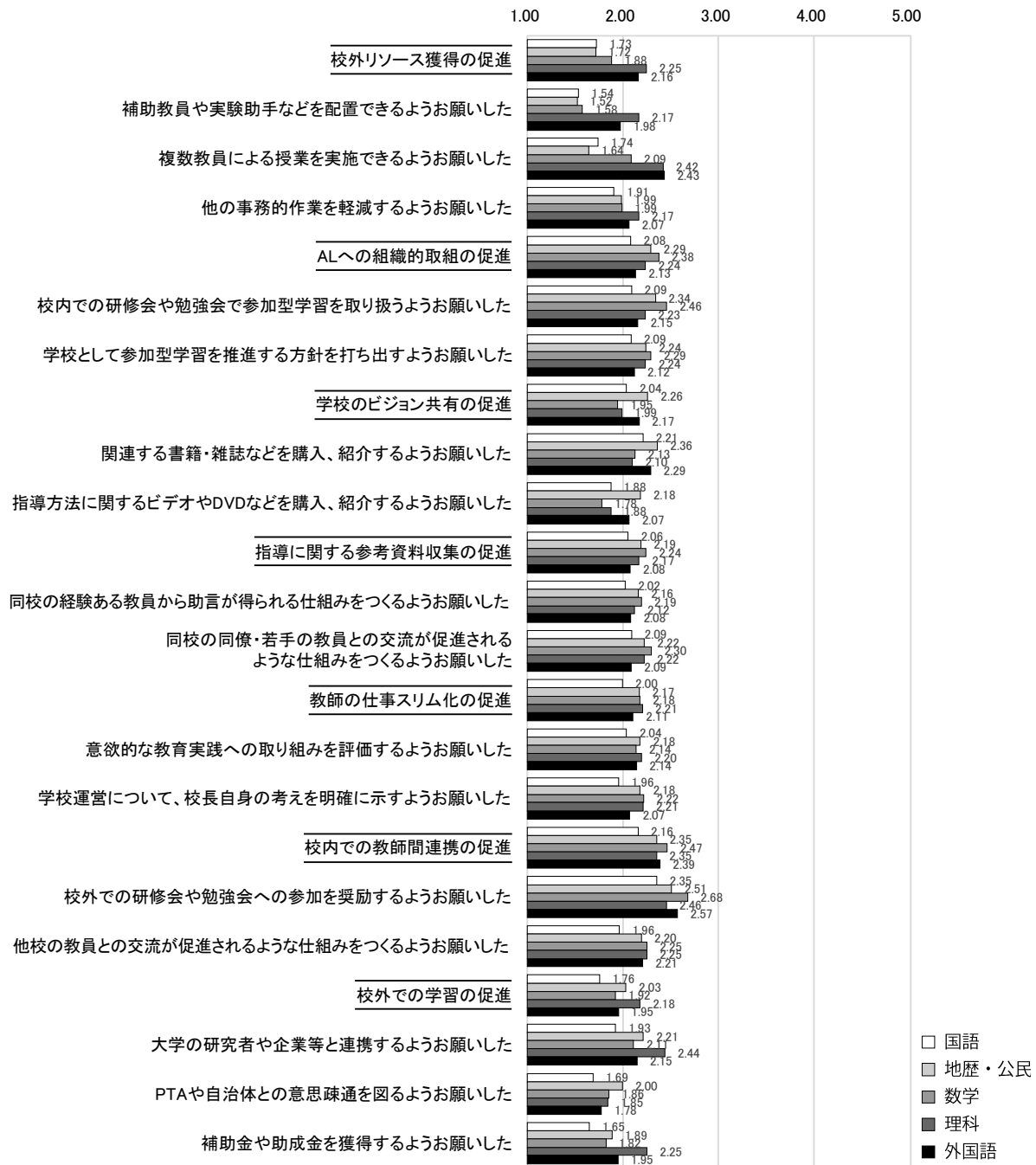


図 16 参加型学習の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけ

表 44 参加型学習の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけ

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
<b>校外リソース獲得の促進</b>						
補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした	1,354	1.79	1.239	7,062	275	8,691
複数教員による授業を実施できるようをお願いした	1,354	2.12	1.419	7,062	275	8,691
他の事務的作業を軽減するようお願いした	1,353	2.03	1.254	7,062	276	8,691
<b>ALへの組織的取組の促進</b>						
校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした	1,351	2.23	1.288	7,062	278	8,691
学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようお願いした	1,351	2.18	1.224	7,062	278	8,691
<b>学校のビジョン共有の促進</b>						
関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした	1,351	2.23	1.319	7,062	278	8,691
指導方法に関するビデオやDVDなどを購入、紹介するようお願いした	1,345	1.97	1.182	7,062	284	8,691
<b>指導に関する参考資料収集の促進</b>						
同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようお願いした	1,351	2.10	1.187	7,062	278	8,691
同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	1,351	2.16	1.214	7,062	278	8,691
<b>教師の仕事スリム化の促進</b>						
意欲的な教育実践への取り組みを評価するようお願いした	1,352	2.14	1.192	7,062	277	8,691
学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようお願いした	1,351	2.11	1.217	7,062	278	8,691
<b>校内での教師間連携の促進</b>						
校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした	1,354	2.51	1.393	7,062	275	8,691
他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	1,354	2.17	1.225	7,062	275	8,691
<b>校外での学習の促進</b>						
大学の研究者や企業等と連携するようお願いした	1,353	2.16	1.265	7,062	276	8,691
PTAや自治体との意思疎通を図るようお願いした	1,353	1.81	1.029	7,062	276	8,691
補助金や助成金を獲得するようお願いした	1,347	1.91	1.196	7,062	282	8,691



続き

項目	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
<b>校外リソース獲得の促進</b>					
補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした	77	103	157	145	872
複数教員による授業を実施できるようをお願いした	130	169	166	158	731
他の事務的作業を軽減するようお願いした	61	160	237	193	702
<b>ALへの組織的取組の促進</b>					
校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした	82	172	299	215	583
学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようお願いした	66	123	387	184	591
<b>学校のビジョン共有の促進</b>					
関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした	90	181	281	195	604
指導方法に関するビデオやDVDなどを購入、紹介するようお願いした	48	119	275	207	696
<b>指導に関する参考資料収集の促進</b>					
同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようお願いした	40	152	333	210	616
同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	51	156	349	201	594
<b>教師の仕事スリム化の促進</b>					
意欲的な教育実践への取り組みを評価するようお願いした	47	134	380	186	605
学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようお願いした	59	121	365	171	635
<b>校内での教師間連携の促進</b>					
校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした	128	253	310	157	506
他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	55	157	347	197	598
<b>校外での学習の促進</b>					
大学の研究者や企業等と連携するようお願いした	69	159	316	183	626
PTAや自治体との意思疎通を図るようお願いした	18	62	320	204	749
補助金や助成金を獲得するようお願いした	54	107	265	165	756

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。
2. 参加型学習の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけについて、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 45 教科別の参加型授業の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけ

項目	国語			地歴・公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
校外リソース獲得の促進	282	1.73	0.900	204	1.72	0.919	187	1.88	0.938
補助教員や実験助手などを配置できるようにお願いした	283	1.54	1.025	205	1.52	0.988	187	1.58	1.067
複数教員による授業を実施できるようにお願いした	282	1.74	1.214	204	1.64	1.094	187	2.09	1.381
他の事務的作業を軽減するようにお願いした	283	1.91	1.226	204	1.99	1.214	187	1.99	1.223
ALへの組織的取組の促進	279	2.08	1.098	205	2.29	1.189	187	2.38	1.221
校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようにお願いした	280	2.09	1.220	205	2.34	1.383	187	2.46	1.377
学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようにお願いした	281	2.09	1.153	205	2.24	1.212	187	2.29	1.284
学校のビジョン共有の促進	281	2.04	1.108	201	2.26	1.193	186	1.95	1.040
関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようにお願いした	281	2.21	1.358	205	2.36	1.331	187	2.13	1.259
指導方法に関するビデオやDVDなどを購入、紹介するようにお願いした	282	1.88	1.136	201	2.18	1.257	187	1.78	1.032
指導に関する参考資料収集の促進	281	2.06	1.102	204	2.19	1.167	186	2.24	1.126
同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようにお願いした	282	2.02	1.188	204	2.16	1.174	186	2.19	1.206
同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようにお願いした	281	2.09	1.192	205	2.22	1.252	187	2.30	1.260
教師の仕事スリム化の促進	281	2.00	1.012	203	2.17	1.129	187	2.18	1.135
意欲的な教育実践への取り組みを評価するようにお願いした	282	2.04	1.126	204	2.18	1.183	187	2.14	1.215
学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようにお願いした	281	1.96	1.139	204	2.18	1.216	187	2.22	1.253
校内での教師間連携の促進	282	2.16	1.188	205	2.35	1.228	187	2.47	1.229
校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようにお願いした	282	2.35	1.377	205	2.51	1.381	187	2.68	1.446
他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようにお願いした	282	1.96	1.159	205	2.20	1.225	187	2.25	1.268
校外での学習の促進	277	1.76	0.906	205	2.03	1.053	186	1.92	1.026
大学の研究者や企業等と連携するようにお願いした	281	1.93	1.133	205	2.21	1.257	187	2.11	1.220
PTAや自治体との意思疎通を図るようにお願いした	282	1.69	0.959	205	2.00	1.100	187	1.86	1.060
補助金や助成金を獲得するようにお願いした	279	1.65	1.031	205	1.89	1.126	186	1.82	1.098

続き

項目	理科			外国語			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
校外リソース獲得の促進	238	2.25	1.145	440	2.16	1.091	1,351	1.98	1.041
補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした	238	2.17	1.355	441	1.98	1.385	1,354	1.79	1.239
複数教員による授業を実施できるようお願いした	239	2.42	1.498	442	2.43	1.524	1,354	2.12	1.419
他の事務的作業を軽減するようお願いした	239	2.17	1.282	440	2.07	1.285	1,353	2.03	1.254
ALへの組織的取組の促進	239	2.24	1.129	438	2.13	1.153	1,348	2.20	1.156
校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした	239	2.23	1.228	440	2.15	1.264	1,351	2.23	1.288
学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようお願いした	239	2.24	1.212	439	2.12	1.251	1,351	2.18	1.224
学校のビジョン共有の促進	239	1.99	1.077	433	2.17	1.203	1,340	2.09	1.142
関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした	239	2.10	1.195	439	2.29	1.372	1,351	2.23	1.319
指導方法に関するビデオやDVDなどを購入、紹介するようお願いした	239	1.88	1.099	436	2.07	1.259	1,345	1.97	1.182
指導に関する参考資料収集の促進	239	2.17	1.106	437	2.08	1.127	1,347	2.13	1.125
同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようお願いした	239	2.12	1.162	440	2.08	1.199	1,351	2.10	1.187
同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	239	2.22	1.190	439	2.09	1.201	1,351	2.16	1.214
教師の仕事スリム化の促進	239	2.21	1.096	439	2.11	1.135	1,349	2.12	1.103
意欲的な教育実践への取り組みを評価するようお願いした	239	2.20	1.174	440	2.14	1.237	1,352	2.14	1.192
学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようお願いした	239	2.21	1.216	440	2.07	1.242	1,351	2.11	1.217
校内での教師間連携の促進	238	2.35	1.189	441	2.39	1.231	1,353	2.34	1.216
校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした	238	2.46	1.320	442	2.57	1.418	1,354	2.51	1.393
他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	239	2.25	1.221	441	2.21	1.240	1,354	2.17	1.225
校外での学習の促進	237	2.18	1.044	438	1.95	1.005	1,343	1.96	1.011
大学の研究者や企業等と連携するようお願いした	239	2.44	1.382	441	2.15	1.276	1,353	2.16	1.265
PTAや自治体との意思疎通を図るようお願いした	239	1.85	0.960	440	1.78	1.052	1,353	1.81	1.029
補助金や助成金を獲得するようお願いした	238	2.25	1.333	439	1.95	1.245	1,347	1.91	1.196

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。
2. 参加型学習の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけについて、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

## 7. 効果の実感の変化

参加型授業を実施した際の効果について、昨年度からどのような変化があったか、25項目の質問について「1. 変化を実感していない」から「5. 変化を実感した」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。5段階のリッカート尺度とみなして回答を1～5点で得点化し、集計を行った。

その結果、「生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった」（ $M=3.66, SD=0.916$ ）、「生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた」（ $M=3.59, SD=0.904$ ）、「生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった」（ $M=3.55, SD=0.925$ ）などの実感の変化が上位であった。一方、「生徒の学習習慣（予復習）が身についた」（ $M=2.80, SD=0.918$ ）、「生徒の進学実績が向上した」（ $M=2.70, SD=0.904$ ）、「地域社会との交流や相互理解が深まった」（ $M=2.69, SD=0.968$ ）などの実感の変化が下位であった。

因子分析の結果、これらの効果の実感は、「思考・表現力」「課題解決力」「教科基礎力」「協働性」「主体性」「市民性」の6つに大きく分類できた。（いずれの因子にも含まれなかった「生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた」の項目は「教員とのコミュニケーション」という独自の分類を設けた。）

教科別に見ると、分散分析の結果、教科の違いによって効果の実感の変化は大きく異ならなかった。（「思考・表現力」で  $F(4,1340)=2.689, n.s., \eta^2=0.008$ 、「課題解決力」で  $F(4,1336)=1.67, n.s., \eta^2=0.005$ 、「教科基礎力」で  $F(4,1335)=2.963, p<0.05, \eta^2=0.009$ 、「協働性」で  $F(4,1344)=2.422, p<0.05, \eta^2=0.007$ 、「主体性」で  $F(4,1346)=3.242, p<0.05, \eta^2=0.01$ 、「市民性」で  $F(4,1343)=7.207, p<0.001, \eta^2=0.021$ 、「教員とのコミュニケーション」で  $F(4,1347)=2.389, p<.05, \eta^2=0.007$ ）従って、この1年間での効果の実感の変化について、教科による差はほとんどないと言える。



図 17 参加型学習の効果の実感の変化

表 46 参加型学習の効果の実感の変化

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
<b>思考・表現力</b>						
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	1,349	3.15	0.977	7,062	280	8,691
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	1,353	3.55	0.925	7,062	276	8,691
生徒がこれまでにない発想をするようになった	1,351	3.17	0.932	7,062	278	8,691
生徒が自分の考えを深められるようになった	1,350	3.44	0.914	7,062	279	8,691
<b>課題解決力</b>						
生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	1,349	3.02	0.898	7,062	280	8,691
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	1,348	3.21	0.913	7,062	281	8,691
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	1,350	3.34	0.927	7,062	279	8,691
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	1,349	3.01	0.883	7,062	280	8,691
<b>教科基礎力</b>						
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	1,352	3.00	0.960	7,062	277	8,691
生徒の進学実績が向上した	1,346	2.70	0.904	7,062	283	8,691
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	1,349	3.09	0.960	7,062	280	8,691
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	1,351	3.09	0.899	7,062	278	8,691
<b>協働性</b>						
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	1,350	3.53	0.951	7,062	279	8,691
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	1,352	3.40	0.925	7,062	277	8,691
生徒の社会性や協調性が高まった	1,352	3.27	0.891	7,062	277	8,691
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	1,352	3.66	0.916	7,062	277	8,691
<b>主体性</b>						
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	1,352	3.13	0.907	7,062	277	8,691
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	1,352	2.80	0.918	7,062	277	8,691
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	1,352	3.00	0.891	7,062	277	8,691
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	1,351	2.97	0.879	7,062	278	8,691
<b>市民性</b>						
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	1,351	2.82	0.893	7,062	278	8,691
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	1,350	3.11	0.981	7,062	279	8,691
地域社会との交流や相互理解が深まった	1,352	2.69	0.968	7,062	277	8,691
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	1,351	2.90	0.881	7,062	278	8,691
<b>教員とのコミュニケーション</b>						
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	1,352	3.59	0.904	7,062	277	8,691

続き

項目	変化を 実感した	やや変化を 実感した	どちらとも いえない	あまり 変化を実感 していない	変化を実感 していない
<b>思考・表現力</b>					
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	70	448	547	182	102
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	148	662	372	125	46
生徒がこれまでにない発想をするようになった	75	412	621	157	86
生徒が自分の考えを深められるようになった	103	616	458	112	61
<b>課題解決力</b>					
生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	43	337	672	203	94
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	61	477	574	160	76
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	84	567	491	140	68
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	33	322	721	165	108
<b>教科基礎力</b>					
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	56	330	647	195	124
生徒の進学実績が向上した	28	138	766	228	186
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	61	400	589	196	103
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	53	377	636	209	76
<b>協働性</b>					
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	149	644	386	110	61
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関わられるようになった	102	591	465	134	60
生徒の社会性や協調性が高まった	76	476	608	125	67
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	196	678	354	76	48
<b>主体性</b>					
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	59	392	655	159	87
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	27	226	695	252	152
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	39	308	723	173	109
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	26	314	712	190	109
<b>市民性</b>					
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	32	206	733	244	136
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	75	398	590	177	110
地域社会との交流や相互理解が深まった	37	171	689	248	207
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	31	243	756	196	125
<b>教員とのコミュニケーション</b>					
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	166	642	419	76	49

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 2015年度からの効果の実感の変化について、「1. 変化を実感していない」「2. あまり変化を実感していない」「3. どちらともいえない」「4. やや変化を実感した」「5. 変化を実感した」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。

3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 47 教科別の参加型学習の効果の実感の変化

項目	国語			地歴・公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
思考・表現力	283	3.34	0.728	203	3.37	0.811	188	3.18	0.779
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	283	3.14	0.955	204	3.21	0.997	188	2.90	0.926
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	283	3.54	0.839	205	3.56	0.903	188	3.27	0.967
生徒がこれまでにない発想をするようになった	283	3.18	0.905	205	3.24	0.916	188	3.16	0.948
生徒が自分の考えを深められるようになった	283	3.50	0.835	204	3.46	0.938	188	3.40	0.893
課題解決力	282	3.10	0.718	203	3.19	0.766	187	3.05	0.767
生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	283	2.99	0.840	205	3.08	0.882	188	2.90	0.844
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	283	3.16	0.846	205	3.32	0.903	188	2.98	0.862
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	283	3.33	0.851	204	3.39	0.917	188	3.35	0.966
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	282	2.93	0.868	204	2.96	0.881	187	2.95	0.851
教科基礎力	277	2.99	0.778	203	2.93	0.738	188	2.83	0.728
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	282	2.95	0.936	205	2.90	0.915	188	3.03	0.986
生徒の進学実績が向上した	278	2.68	0.892	204	2.58	0.847	188	2.71	0.873
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	282	3.11	0.969	204	3.08	0.964	188	2.76	0.898
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	283	3.23	0.874	205	3.14	0.866	188	2.83	0.867
協働性	283	3.42	0.768	204	3.45	0.800	188	3.38	0.810
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	283	3.48	0.904	204	3.55	0.974	188	3.42	1.002
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関わられるようになった	283	3.37	0.907	205	3.39	0.920	188	3.34	0.943
生徒の社会性や協調性が高まった	283	3.24	0.922	205	3.31	0.880	188	3.15	0.871
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	283	3.59	0.896	205	3.56	0.903	188	3.59	0.974
主体性	283	2.88	0.772	205	2.90	0.763	187	3.02	0.777
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	283	2.99	0.842	205	3.04	0.885	188	3.24	0.961
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	283	2.73	0.915	205	2.74	0.879	188	2.85	0.925
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	283	2.90	0.886	205	2.92	0.895	188	3.02	0.862
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	283	2.90	0.898	205	2.92	0.888	187	2.97	0.848
市民性	281	2.84	0.810	205	3.05	0.786	187	2.66	0.788
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	282	2.80	0.936	205	2.95	0.925	188	2.67	0.888
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	282	3.10	0.973	205	3.52	0.968	188	2.66	0.871
地域社会との交流や相互理解が深まった	283	2.64	0.929	205	2.85	1.011	188	2.52	0.922
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	283	2.84	0.916	205	2.90	0.840	187	2.79	0.834
教員とのコミュニケーション									
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	282	3.48	0.913	205	3.58	0.840	188	3.53	0.922



続き

項目	理科			外国語			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
思考・表現力	235	3.27	0.834	436	3.39	0.778	1,345	3.33	0.785
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	236	3.19	1.010	438	3.21	0.974	1,349	3.15	0.977
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	237	3.40	0.993	440	3.75	0.889	1,353	3.55	0.925
生徒がこれまでにない発想をするようになった	237	3.12	0.942	438	3.17	0.947	1,351	3.17	0.932
生徒が自分の考えを深められるようになった	236	3.37	0.987	439	3.43	0.921	1,350	3.44	0.914
課題解決力	234	3.22	0.819	435	3.16	0.805	1,341	3.15	0.779
生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	237	3.14	0.972	436	3.01	0.917	1,349	3.02	0.898
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	235	3.34	0.954	437	3.23	0.942	1,348	3.21	0.913
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	236	3.37	0.983	439	3.31	0.933	1,350	3.34	0.927
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	237	3.01	0.909	439	3.09	0.889	1,349	3.01	0.883
教科基礎力	235	2.93	0.768	437	3.05	0.797	1,340	2.97	0.772
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	238	2.95	0.922	439	3.09	0.999	1,352	3.00	0.960
生徒の進学実績が向上した	238	2.72	0.886	438	2.75	0.958	1,346	2.70	0.904
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	236	3.10	0.975	439	3.22	0.939	1,349	3.09	0.960
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	236	2.99	0.887	439	3.15	0.925	1,351	3.09	0.899
協働性	237	3.43	0.825	437	3.56	0.746	1,349	3.47	0.784
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	237	3.54	0.985	438	3.58	0.929	1,350	3.53	0.951
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関わられるようになった	237	3.31	0.975	439	3.50	0.899	1,352	3.40	0.925
生徒の社会性や協調性が高まった	237	3.25	0.922	439	3.34	0.863	1,352	3.27	0.891
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	237	3.62	0.943	439	3.81	0.879	1,352	3.66	0.916
主体性	237	2.94	0.794	439	3.06	0.764	1,351	2.97	0.775
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	237	3.22	0.936	439	3.17	0.907	1,352	3.13	0.907
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	237	2.58	0.947	439	2.96	0.890	1,352	2.80	0.918
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	237	3.00	0.939	439	3.08	0.873	1,352	3.00	0.891
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	237	2.96	0.894	439	3.04	0.866	1,351	2.97	0.879
市民性	236	2.82	0.778	439	2.94	0.799	1,348	2.88	0.802
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	237	2.79	0.867	439	2.85	0.859	1,351	2.82	0.893
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	236	2.93	0.903	439	3.22	0.983	1,350	3.11	0.981
地域社会との交流や相互理解が深まった	237	2.68	0.942	439	2.73	0.995	1,352	2.69	0.968
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	237	2.90	0.880	439	2.97	0.893	1,351	2.90	0.881
教員とのコミュニケーション									
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	237	3.69	0.885	440	3.65	0.924	1,352	3.59	0.904

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 2015年度からの効果の実感の変化について、「1. 変化を実感していない」「2. あまり変化を実感していない」「3. どちらともいえない」「4. やや変化を実感した」「5. 変化を実感した」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

## 8. 悩みの変化

参加型授業を実施した際の悩みについて、昨年度からどのような変化があったか、21項目の質問について「1. 悩みが減った」から「5. 悩みが増えた」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。5段階のリッカート尺度とみなして回答を1～5点で得点化し、集計を行った。

その結果、「授業前後の教員の負担が増加する」( $M=3.81, SD=0.821$ )、「授業の進度が遅くなる」( $M=3.62, SD=0.846$ )、「授業の時間が足りない」( $M=3.61, SD=0.809$ )などの悩みの変化が上位であった。一方、「保護者の理解が得られない」( $M=2.80, SD=0.602$ )、「生徒の理解が得られない」( $M=2.78, SD=0.694$ )、「授業中の生徒の集中力が低下する」( $M=2.73, SD=0.802$ )などの悩みの変化が下位であった。

昨年度の調査において悩みの上位に挙げられた項目が、悩みの変化でも上位に挙げられている。つまり、参加型授業への取り組みが増えた現状において、これらの悩みが参加型授業に取り組むほど増加する悩みであると考えられる。一方で、生徒や保護者の理解など、関係者の理解を得ることについての悩みはあまり増えていない。昨年度は、「このようなやり方で受験を乗り越えられる力がつくのか不安だ」というような声が生徒や保護者からあるという悩みが参加型授業を実施している学校には見られたが、アクティブラーニングの必要性については社会に浸透しつつあるのだろうと考えられる。

因子分析の結果、これらの悩みは、「教育効果に関する悩み」「授業の進度に関する悩み」「生徒の学習態度に関する悩み」「教員の理解に関する悩み」「教員の負担増加に関する悩み」「生徒や保護者の理解に関する悩み」「教育資源に関する悩み」「授業方法や評価に関する悩み」の8つに大きく分類できた。

教科別に見ると、分散分析の結果、教科の違いによって効果の実感の変化は大きく異ならなかった。（「教育効果に関する悩み」で  $F(4,1338)=2.17, n.s., \eta^2=0.006$ 、「授業の進度に関する悩み」で  $F(4,1340)=8.383, p<0.001, \eta^2=0.024$ 、「生徒の学習態度に関する悩み」で  $F(4,1337)=1.997, n.s., \eta^2=0.006$ 、「教員の理解に関する悩み」で  $F(4,1339)=1.648, n.s., \eta^2=0.005$ 、「教員の負担増加に関する悩み」で  $F(4,1340)=4.456, p<0.01, \eta^2=0.013$ 、「生徒や保護者の理解に関する悩み」で  $F(4,1340)=1.941, n.s., \eta^2=0.006$ 、「教育資源に関する悩み」で  $F(4,1339)=7.77, p<0.001, \eta^2=0.023$ 、「授業方法や評価に関する悩み」で  $F(4,1337)=3.309, p<0.05, \eta^2=0.01$ ）従って、この1年間での悩みの変化について、教科による差はほとんどないと言える。

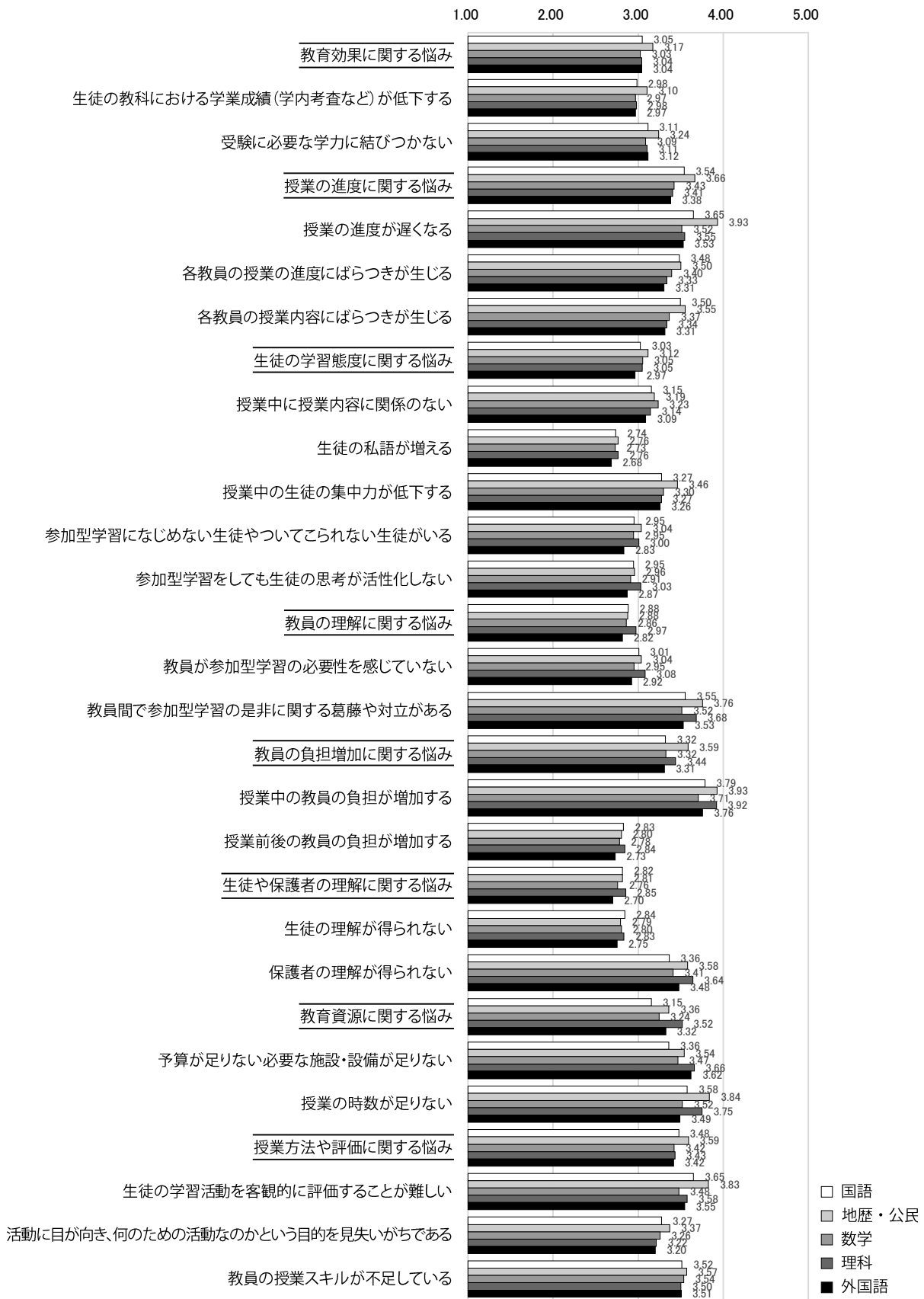


図 18 参加型学習の悩みの変化

表 48 参加型学習の悩みの変化

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
<b>教育効果に関する悩み</b>						
生徒の教科における学業成績（学 内考査など）が低下する	1,345	2.99	0.579	7,062	284	8,691
受験に必要な学力に結びつかない	1,345	3.13	0.724	7,062	284	8,691
<b>授業の進度に関する悩み</b>						
授業の進度が遅くなる	1,349	3.62	0.846	7,062	280	8,691
各教員の授業の進度にばらつきが 生じる	1,348	3.39	0.734	7,062	281	8,691
各教員の授業内容にばらつきが生 じる	1,345	3.40	0.731	7,062	284	8,691
<b>生徒の学習態度に関する悩み</b>						
授業中に授業内容に関係のない生 徒の私語が増える	1,346	3.15	0.836	7,062	283	8,691
授業中の生徒の集中力が低下する	1,346	2.73	0.802	7,062	283	8,691
参加型学習になじめない生徒やつ いてこられない生徒がいる	1,344	3.30	0.866	7,062	285	8,691
参加型学習をしても生徒の思考が 活性化しない	1,345	2.93	0.848	7,062	284	8,691
<b>教員の理解に関する悩み</b>						
教員が参加型学習の必要性を感じ ていない	1,346	2.87	0.826	7,062	283	8,691
教員間で参加型学習の是非に関す る葛藤や対立がある	1,345	2.99	0.865	7,062	284	8,691
<b>教員の負担増加に関する悩み</b>						
授業中の教員の負担が増加する	1,346	3.38	0.912	7,062	283	8,691
授業前後の教員の負担が増加する	1,351	3.81	0.821	7,062	278	8,691
<b>生徒や保護者の理解に関する悩み</b>						
生徒の理解が得られない	1,345	2.78	0.694	7,062	284	8,691
保護者の理解が得られない	1,345	2.80	0.602	7,062	284	8,691
<b>教育資源に関する悩み</b>						
予算が足りない	1,349	3.32	0.768	7,062	280	8,691
必要な施設・設備が足りない	1,349	3.54	0.877	7,062	280	8,691
授業の時間が足りない	1,346	3.61	0.809	7,062	283	8,691
<b>授業方法や評価に関する悩み</b>						
生徒の学習活動を客観的に評価す ることが難しい	1,346	3.61	0.811	7,062	283	8,691
活動に目が向き、何のための活動 なのかという目的を見失いがち である	1,347	3.25	0.816	7,062	282	8,691
教員の授業スキルが不足している	1,348	3.52	0.763	7,062	281	8,691

続き

項目	悩みが増えた	少し悩みが増えた	変わらない	少し悩みが減った	悩みが減った
<b>教育効果に関する悩み</b>					
生徒の教科における学業成績（学内考査など）が低下する	25	112	1071	103	34
受験に必要な学力に結びつかない	49	265	879	114	38
<b>授業の進度に関する悩み</b>					
授業の進度が遅くなる	174	605	477	65	28
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	79	469	723	54	23
各教員の授業内容にばらつきが生じる	80	474	717	52	22
<b>生徒の学習態度に関する悩み</b>					
授業中に授業内容に関係のない生徒の私語が増える	61	335	760	123	67
授業中の生徒の集中力が低下する	14	143	764	311	114
参加型学習になじめない生徒やついてこれない生徒がいる	88	459	607	148	42
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	47	229	730	267	72
<b>教員の理解に関する悩み</b>					
教員が参加型学習の必要性を感じていない	36	178	811	222	99
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	57	233	787	176	92
<b>教員の負担増加に関する悩み</b>					
授業中の教員の負担が増加する	150	416	619	116	45
授業前後の教員の負担が増加する	275	611	411	43	11
<b>生徒や保護者の理解に関する悩み</b>					
生徒の理解が得られない	7	98	917	235	88
保護者の理解が得られない	4	51	1034	183	73
<b>教育資源に関する悩み</b>					
予算が足りない	140	232	919	31	27
必要な施設・設備が足りない	221	388	668	43	29
授業の時数が足りない	205	470	634	18	19
<b>授業方法や評価に関する悩み</b>					
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	172	566	532	59	17
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	82	371	743	107	44
教員の授業スキルが不足している	140	495	653	48	12

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 2015年度からの悩みの変化について、「1. 悩みが減った」「2. 少し悩みが減った」「3. 変わらない」「4. 少し悩みが増えた」「5. 悩みが増えた」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 49 教科別の参加型学習の悩みの変化

項目	国語			地歴・公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教育効果に関する悩み	283	3.05	0.488	204	3.17	0.589	187	3.03	0.577
生徒の教科における学業成績（学内考査など）が低下する	284	2.98	0.493	204	3.10	0.599	187	2.97	0.621
受験に必要な学力に結びつかない	283	3.11	0.620	204	3.24	0.692	188	3.09	0.699
授業の進度に関する悩み	284	3.54	0.619	204	3.66	0.645	187	3.43	0.627
授業の進度が遅くなる	285	3.65	0.798	204	3.93	0.779	188	3.52	0.886
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	285	3.48	0.700	204	3.50	0.778	187	3.40	0.743
各教員の授業内容にばらつきが生じる	284	3.50	0.691	204	3.55	0.751	187	3.37	0.709
生徒の学習態度に関する悩み	283	3.03	0.697	202	3.12	0.612	188	3.05	0.616
授業中に授業内容に関係のない生徒の私語が増える	284	3.15	0.860	204	3.19	0.767	188	3.23	0.833
授業中の生徒の集中力が低下する	284	2.74	0.818	203	2.76	0.810	188	2.73	0.798
参加型学習になじめない生徒やついてこれない生徒がいる	284	3.27	0.891	203	3.46	0.869	188	3.30	0.882
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	283	2.95	0.857	203	3.04	0.843	188	2.95	0.779
教員の理解に関する悩み	285	2.95	0.761	204	2.96	0.896	187	2.91	0.733
教員が参加型学習の必要性を感じていない	285	2.88	0.790	204	2.88	0.936	188	2.86	0.802
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	285	3.01	0.818	204	3.04	0.962	187	2.95	0.805
教員の負担増加に関する悩み	285	3.55	0.736	203	3.76	0.781	188	3.52	0.751
授業中の教員の負担が増加する	285	3.32	0.877	203	3.59	0.899	188	3.32	0.863
授業前後の教員の負担が増加する	285	3.79	0.792	204	3.93	0.842	188	3.71	0.837
生徒や保護者の理解に関する悩み	284	2.83	0.599	204	2.80	0.630	188	2.78	0.623
生徒の理解が得られない	284	2.82	0.684	204	2.81	0.698	188	2.76	0.717
保護者の理解が得られない	284	2.84	0.588	204	2.79	0.633	188	2.80	0.602
教育資源に関する悩み	284	3.36	0.569	204	3.58	0.673	187	3.41	0.580
予算が足りない	285	3.15	0.744	204	3.36	0.779	188	3.24	0.665
必要な施設・設備が足りない	285	3.36	0.813	204	3.54	0.938	187	3.47	0.812
授業の時間が足りない	284	3.58	0.764	204	3.84	0.805	188	3.52	0.763
授業方法や評価に関する悩み	279	3.48	0.631	204	3.59	0.587	188	3.42	0.573
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	283	3.65	0.822	204	3.83	0.809	188	3.48	0.797
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	283	3.27	0.867	204	3.37	0.824	188	3.26	0.780
教員の授業スキルが不足している	283	3.52	0.769	204	3.57	0.743	188	3.54	0.756

続き

項目	理科			外国語			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教育効果に関する悩み	236	3.04	0.563	433	3.04	0.663	1,343	3.06	0.590
生徒の教科における学業成績（学内考査など）が低下する	236	2.98	0.534	434	2.97	0.622	1,345	2.99	0.579
受験に必要な学力に結びつかない	236	3.11	0.691	434	3.12	0.822	1,345	3.13	0.724
授業の進度に関する悩み	235	3.41	0.603	435	3.38	0.676	1,345	3.47	0.647
授業の進度が遅くなる	237	3.55	0.870	435	3.53	0.843	1,349	3.62	0.846
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	236	3.33	0.648	436	3.31	0.762	1,348	3.39	0.734
各教員の授業内容にばらつきが生じる	235	3.34	0.635	435	3.31	0.788	1,345	3.40	0.731
生徒の学習態度に関する悩み	236	3.05	0.619	433	2.97	0.688	1,342	3.03	0.659
授業中に授業内容に関係のない生徒の私語が増える	236	3.14	0.843	434	3.09	0.848	1,346	3.15	0.836
授業中の生徒の集中力が低下する	236	2.76	0.740	435	2.68	0.823	1,346	2.73	0.802
参加型学習になじめない生徒やついてこれない生徒がいる	236	3.27	0.822	433	3.26	0.859	1,344	3.30	0.866
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	236	3.00	0.752	435	2.83	0.912	1,345	2.93	0.848
教員の理解に関する悩み	235	3.03	0.738	433	2.87	0.822	1,344	2.93	0.796
教員が参加型学習の必要性を感じていない	235	2.97	0.756	434	2.82	0.840	1,346	2.87	0.826
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	236	3.08	0.824	433	2.92	0.890	1,345	2.99	0.865
教員の負担増加に関する悩み	236	3.68	0.741	433	3.53	0.783	1,345	3.59	0.765
授業中の教員の負担が増加する	236	3.44	0.937	434	3.31	0.935	1,346	3.38	0.912
授業前後の教員の負担が増加する	237	3.92	0.780	437	3.76	0.835	1,351	3.81	0.821
生徒や保護者の理解に関する悩み	236	2.84	0.517	433	2.73	0.634	1,345	2.79	0.606
生徒の理解が得られない	236	2.85	0.604	433	2.70	0.727	1,345	2.78	0.694
保護者の理解が得られない	236	2.83	0.540	433	2.75	0.628	1,345	2.80	0.602
教育資源に関する悩み	236	3.64	0.662	433	3.48	0.691	1,344	3.49	0.650
予算が足りない	236	3.52	0.822	436	3.32	0.766	1,349	3.32	0.768
必要な施設・設備が足りない	236	3.66	0.807	437	3.62	0.932	1,349	3.54	0.877
授業の時間が足りない	237	3.75	0.814	433	3.49	0.825	1,346	3.61	0.809
授業方法や評価に関する悩み	236	3.43	0.532	435	3.42	0.632	1,342	3.46	0.603
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	236	3.58	0.803	435	3.55	0.797	1,346	3.61	0.811
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	236	3.22	0.715	436	3.20	0.842	1,347	3.25	0.816
教員の授業スキルが不足している	236	3.50	0.700	437	3.51	0.806	1,348	3.52	0.763

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

- 2015年度からの悩みの変化について、「1. 悩みが減った」「2. 少し悩みが減った」「3. 変わらない」「4. 少し悩みが増えた」「5. 悩みが増えた」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
- 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
- カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。



## 9. 組織文化

参加型授業の実施による昨年度からの変化について、どのような学校において変化が見られるのかを分析するため、その教科における組織文化について調査した。

教科の組織文化に関する 10 項目について「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。

その結果、「各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている」（ $M=4.07, SD=0.792$ ）、「各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている」（ $M=3.96, SD=0.796$ ）、「各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している」（ $M=3.96, SD=0.737$ ）などの項目が上位であった。一方、「各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる」（ $M=3.67, SD=0.815$ ）、「各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない」（ $M=3.34, SD=0.979$ ）、「教材研究のための時間が確保されている」（ $M=2.37, SD=1.021$ ）などの項目が下位であった。

因子分析の結果、これらの項目は、「教師自身の成長意欲」「自律的な仕事環境」「教師間の支え合い」の 3 つに大きく分類できた。

教科別に見ると、分散分析の結果、教科の違いによって組織文化は大きく異ならなかった。（「教師自身の成長意欲」で  $F(4,1342)=2.465, p<0.05, \eta^2=0.007$ 、「自律的な仕事環境」で  $F(4,1336)=0.679, n.s., \eta^2=0.002$ 、「教師間の支え合い」で  $F(4,1348)=11.574, p<0.001, \eta^2=0.033$ ）従って、教科の組織文化について、教科による差はほとんどないと言える。

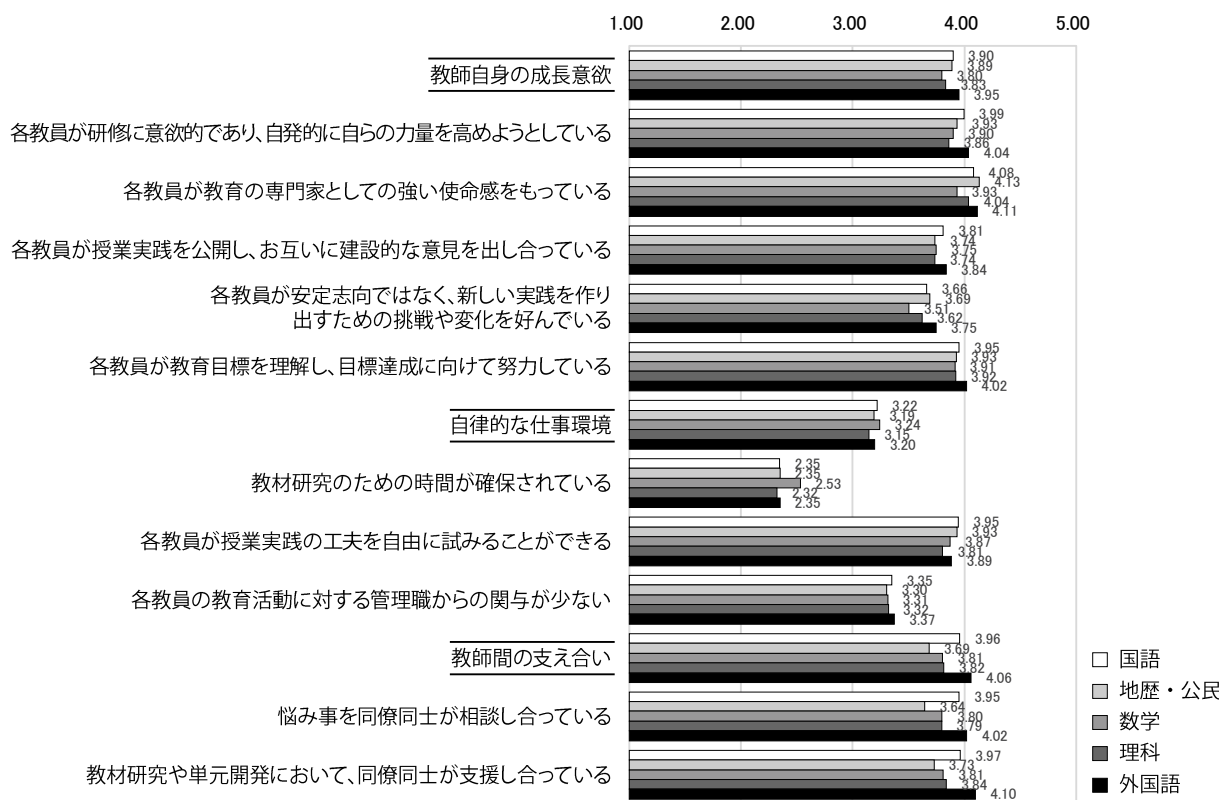


図 19 教科における組織文化

表 50 教科における組織文化

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
<b>教師自身の成長意欲</b>						
各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	1,358	3.96	0.796	7,062	271	8,691
各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	1,354	4.07	0.792	7,062	275	8,691
各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	1,353	3.79	0.846	7,062	276	8,691
各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	1,357	3.67	0.815	7,062	272	8,691
各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	1,357	3.96	0.737	7,062	272	8,691
<b>自律的な仕事環境</b>						
教材研究のための時間が確保されている	1,356	2.37	1.021	7,062	273	8,691
各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	1,352	3.89	0.858	7,062	277	8,691
各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	1,348	3.34	0.979	7,062	281	8,691
<b>教師間の支え合い</b>						
悩み事を同僚同士が相談し合っている	1,356	3.88	0.825	7,062	273	8,691
教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	1,354	3.93	0.815	7,062	275	8,691

続き

項目	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
<b>教師自身の成長意欲</b>					
各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	331	710	261	47	9
各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	421	656	236	34	7
各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	249	669	350	67	18
各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	190	620	462	73	12
各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	298	747	274	35	3
<b>自律的な仕事環境</b>					
教材研究のための時間が確保されている	35	151	386	491	293
各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	317	670	277	75	13
各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	193	319	643	139	54
<b>教師間の支え合い</b>					
悩み事を同僚同士が相談し合っている	284	714	288	52	18
教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	320	692	281	49	12

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 教科における各教員の考え方や行動について、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 51 教科別の教科における組織文化

項目	国語			地歴・公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教師自身の成長意欲	286	3.90	0.621	202	3.89	0.678	186	3.80	0.608
各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	286	3.99	0.777	205	3.93	0.831	202	3.90	0.764
各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	286	4.08	0.752	202	4.13	0.845	188	3.93	0.788
各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	286	3.81	0.812	205	3.74	0.891	187	3.75	0.807
各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	286	3.66	0.803	205	3.69	0.856	188	3.51	0.791
各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	286	3.95	0.729	205	3.93	0.798	187	3.91	0.728
自律的な仕事環境	283	3.22	0.628	202	3.19	0.643	187	3.24	0.576
教材研究のための時間が確保されている	286	2.35	1.010	204	2.35	1.124	188	2.53	0.989
各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	285	3.95	0.852	204	3.93	0.791	187	3.87	0.826
各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	284	3.35	1.010	204	3.30	1.034	188	3.31	0.955
教師間の支え合い	286	3.96	0.704	205	3.69	0.772	186	3.81	0.715
悩み事を同僚同士が相談し合っている	286	3.95	0.800	205	3.64	0.905	187	3.80	0.789
教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	286	3.97	0.762	205	3.73	0.836	186	3.81	0.807

続き

項目	理科			外国語			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教師自身の成長意欲	235	3.83	0.603	438	3.95	0.651	1,347	3.89	0.636
各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	238	3.86	0.797	441	4.04	0.798	1,358	3.96	0.796
各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	238	4.04	0.770	440	4.11	0.802	1,345	2.99	0.579
各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	236	3.74	0.787	439	3.84	0.892	1,345	3.13	0.724
各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	237	3.62	0.770	441	3.75	0.828	1,349	3.62	0.846
各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	238	3.92	0.671	441	4.02	0.751	1,348	3.39	0.734
自律的な仕事環境	236	3.15	0.585	433	3.20	0.649	1,341	3.20	0.623
教材研究のための時間が確保されている	238	2.32	0.950	440	2.35	1.028	1,345	3.40	0.731
各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	238	3.81	0.879	438	3.89	0.893	1,346	3.61	0.811
各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	236	3.32	0.868	436	3.37	1.001	1,347	3.25	0.816
教師間の支え合い	237	3.82	0.706	439	4.06	0.756	1,353	3.91	0.745
悩み事を同僚同士が相談し合っている	238	3.79	0.777	440	4.02	0.812	1,356	3.88	0.825
教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	237	3.84	0.792	440	4.10	0.821	1,346	3.15	0.836

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 教科における各教員の考え方や行動について、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

## 10. 校内研修

参加型授業の実施による昨年度からの変化について、どのような学校において変化が見られるのかを分析するため、その教科におけるアクティブラーニングに関する校内研修の実態について調査した。

各教科においてアクティブラーニングに関する校内研修を年に何回実施しているかを尋ねたところ、最少で0回、最多で33回、平均は年間1.54回であった。教科別では、地歴・公民科の1.90回が最も多く、外国語科での1.32回が最も少なかった。

外部機関によるアクティブラーニングに関する研修会をどのように利用しているかについては、「教科の一部の教員が校務として参加し、他の教員と情報共有している」(30.3%)と「教科として参加が奨励されているが、義務付けられておらず、教員個々の判断に任せている」(29.4%)が多く、「教科として働きかけることはなく、教員個々の判断に任せている」(22.1%)、「教科のほとんどの教員が校務として参加している」(17.5%)と続いた。ほとんどの教員が校務として参加している教科もあれば、完全に各教員の判断に任せている教科もあり、外部機関による研修の利用実態はさまざまであった。

(回/年)

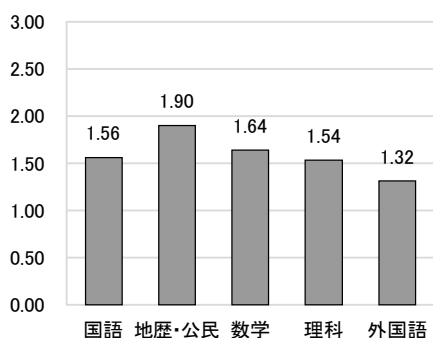
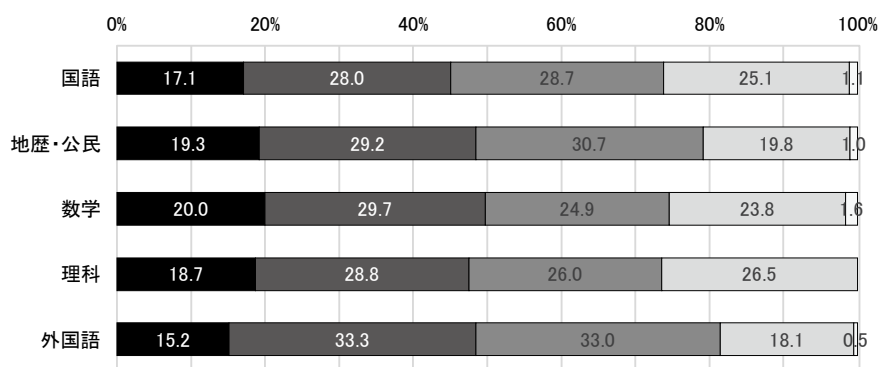


図 20 教科別のアクティブラーニングに関する校内研修の回数

表 52 アクティブラーニングに関する校内研修の回数

ALに関する校内研修の回数	度数	平均値	標準偏差
国語	272	1.56	2.567
地歴・公民	187	1.90	2.552
数学	183	1.64	1.846
理科	221	1.54	1.808
外国語	416	1.32	1.886
合計	1,279	1.54	2.142

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。  
 2. 各教科の教員が1人でも参加した学校主催のアクティブラーニングに関する校内研修の年間の回数について尋ねた。  
 3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。



- 教科のほとんどの教員が校務として参加している
- 教科の一部の教員が校務として参加し、他の教員と情報共有している
- 教科として参加が奨励されているが、義務付けられておらず、教員個々の判断に任せている
- 教科として働きかけることはなく、教員個々の判断に任せている
- その他

図 21 教科における外部機関が主催するアクティブラーニングに関する研修の利用方法

表 53 教科における外部機関が主催するアクティブラーニングに関する研修の利用方法

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
教科のほとんどの教員が校務として参加している	47	17.1	37	19.3	37	20.0	41	18.7	64	15.2	226	17.5
教科の一部の教員が校務として参加し、他の教員と情報共有している	77	28.0	56	29.2	55	29.7	63	28.8	140	33.3	391	30.3
教科として参加が奨励されているが、義務付けられておらず、教員個々の判断に任せている	79	28.7	59	30.7	46	24.9	57	26.0	139	33.0	380	29.4
教科として働きかけることはなく、教員個々の判断に任せている	69	25.1	38	19.8	44	23.8	58	26.5	76	18.1	285	22.1
その他	3	1.1	2	1.0	3	1.6	0	0.0	2	0.5	229	17.7
有効回答数	275	100.0	192	100.0	185	100.0	219	100.0	421	100.0	1,292	100.0
無効回答	1		0		0		0		0		1	
無回答	65		66		41		69		96		337	
合計	341		258		226		288		517		1,630	

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。  
 2. 教科において教育委員会や外部機関が主催するアクティブラーニングに関する研修の利用方法について尋ねた。  
 3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。

## 11. 参加型授業への学習環境の導入・活用状況

参加型授業を実施する際に ICT 等の学習環境を活用しているかどうか、学習環境の活用状況について調査した。タブレット型コンピュータ（生徒用）、インターネットに接続されたコンピュータ（生徒用）、実物投影機（書画カメラ）、プロジェクタ、電子黒板、クリッカー、グループ学習室、デジタル教科書の学習環境について、学校に導入されているか、それを参加型学習に活用しているかという観点から、「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」「すでに導入しているが参加型学習には活用していない」「今後、導入する予定」「導入する予定はない」の5段階で尋ねた。

「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」を「活用している」と捉えて、教科における活用状況を集計した結果、参加型授業において最も活用されているのは「プロジェクタ」で、74.7%の教科で活用されていた。以下、「実物投影機（書画カメラ）」(39.9%)、「コンピュータ（生徒用）」(39.7%)、「電子黒板」(21.7%)、「タブレット型コンピュータ（生徒用）」(20.8%)、「デジタル教科書」(14.9%)、「グループ学習室」(12.2%)、「クリッカー」(3.6%)と続いた。活用している教科の割合が低いものについては、そもそも学校に導入されていない場合も多く、クリッカーで90.2%、グループ学習室で79.2%、デジタル教科書で67.9%の教科が、「導入する予定はない」という回答していた。

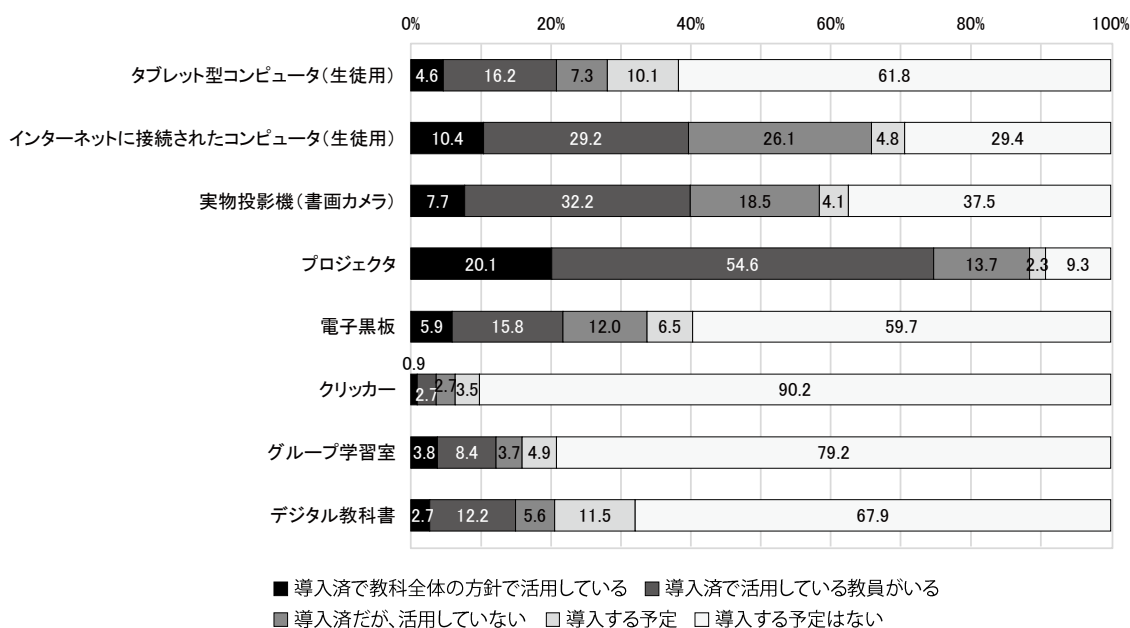


図 22 参加型授業への学習環境の導入・活用状況

表 54 参加型授業へのタブレット型コンピュータ（生徒用）の導入・活用状況

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	8	2.8	9	4.3	10	5.3	13	5.5	23	5.2	63	4.6
導入済で活用している教員がいる	38	13.1	38	18.2	28	14.9	54	22.9	63	14.3	221	16.2
導入済だが、活用していない	31	10.7	16	7.7	7	3.7	13	5.5	32	7.3	99	7.3
導入する予定	22	7.6	27	12.9	25	13.3	30	12.7	34	7.7	138	10.1
導入する予定はない	190	65.7	119	56.9	118	62.8	126	53.4	289	65.5	842	61.8
有効回答数	289	100.0	209	100.0	188	100.0	236	100.0	441	100.0	1,363	100.0
無回答	52		49		38		52		76		267	
合計	341		258		226		288		517		1,630	

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。  
 2. 参加型授業へのタブレット型コンピュータ（生徒用）の導入・活用状況について、「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」「すでに導入しているが参加型学習には活用していない」「今後、導入する予定」「導入する予定はない」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。  
 3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。

表 55 参加型授業へのインターネットに接続されたコンピュータ（生徒用）の導入・活用状況

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	15	5.2	29	14.1	13	6.9	31	13.1	54	12.2	142	10.4
導入済で活用している教員がいる	65	22.7	65	31.6	46	24.5	81	34.2	140	31.7	397	29.2
導入済だが、活用していない	92	32.2	39	18.9	53	28.2	53	22.4	118	26.7	355	26.1
導入する予定	13	4.5	13	6.3	7	3.7	14	5.9	18	4.1	65	4.8
導入する予定はない	101	35.3	60	29.1	69	36.7	58	24.5	112	25.3	400	29.4
有効回答数	286	100.0	206	100.0	188	100.0	237	100.0	442	100.0	1,359	100.0
無効回答	0		1		0		0		0		1	
無回答	55		51		38		51		75		270	
合計	341		258		226		288		517		1,630	

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。  
 2. 参加型授業へのインターネットに接続されたコンピュータ（生徒用）の導入・活用状況について、「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」「すでに導入しているが参加型学習には活用していない」「今後、導入する予定」「導入する予定はない」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。  
 3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。

表 56 参加型授業への実物投影機（書画カメラ）の導入・活用状況

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	10	3.5	19	9.2	12	6.4	33	14.0	30	6.9	104	7.7
導入済で活用している教員がいる	83	29.1	64	30.9	69	36.7	97	41.3	122	28.0	435	32.2
導入済だが、活用していない	54	18.9	40	19.3	32	17.0	40	17.0	84	19.3	250	18.5
導入する予定	8	2.8	6	2.9	5	2.7	16	6.8	20	4.6	55	4.1
導入する予定はない	130	45.6	78	37.7	70	37.2	49	20.9	180	41.3	507	37.5
有効回答数	285	100.0	207	100.0	188	100.0	235	100.0	436	100.0	1,351	100.0
無回答	56		51		38		53		81		279	
合計	341		258		226		288		517		1,630	

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。  
 2. 参加型授業への実物投影機（書画カメラ）の導入・活用状況について、「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」「すでに導入しているが参加型学習には活用していない」「今後、導入する予定」「導入する予定はない」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。  
 3. 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。

表 57 参加型授業へのプロジェクトの導入・活用状況

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	31	10.7	53	25.2	22	11.6	74	31.1	95	21.5	275	20.1
導入済で活用している教員がいる	141	48.8	116	55.2	104	55.0	131	55.0	255	57.7	747	54.6
導入済だが、活用していない	55	19.0	24	11.4	30	15.9	19	8.0	60	13.6	188	13.7
導入する予定	9	3.1	4	1.9	6	3.2	5	2.1	7	1.6	31	2.3
導入する予定はない	53	18.3	13	6.2	27	14.3	9	3.8	25	5.7	127	9.3
有効回答数	289	100.0	210	100.0	189	100.0	238	100.0	442	100.0	1,368	100.0
無回答	52		48		37		50		75		262	
合計	341		258		226		288		517		1,630	

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

- 参加型授業へのプロジェクトの導入・活用状況について、「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」「すでに導入しているが参加型学習には活用していない」「今後、導入する予定」「導入する予定はない」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。
- 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。

表 58 参加型授業への電子黒板の導入・活用状況

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	8	2.8	20	9.6	9	4.8	15	6.4	29	6.6	81	5.9
導入済で活用している教員がいる	35	12.1	39	18.8	32	16.9	40	17.0	69	15.6	215	15.8
導入済だが、活用していない	27	9.3	19	9.1	29	15.3	41	17.4	48	10.9	164	12.0
導入する予定	18	6.2	16	7.7	8	4.2	19	8.1	28	6.3	89	6.5
導入する予定はない	201	69.6	114	54.8	111	58.7	120	51.1	267	60.5	813	59.7
有効回答数	289	100.0	208	100.0	189	100.0	235	100.0	441	100.0	1,362	100.0
無効回答	0		1		0		0		0		1	
無回答	52		49		37		53		76		267	
合計	341		258		226		288		517		1,630	

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

- 参加型授業への電子黒板の導入・活用状況について、「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」「すでに導入しているが参加型学習には活用していない」「今後、導入する予定」「導入する予定はない」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。
- 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。

表 59 参加型授業へのクリッカーの導入・活用状況

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	0	0.0	1	0.5	0	0.0	2	0.9	9	2.1	12	0.9
導入済で活用している教員がいる	2	0.7	4	2.0	7	3.8	8	3.6	14	3.2	35	2.7
導入済だが、活用していない	2	0.7	8	4.0	5	2.7	5	2.3	16	3.7	36	2.7
導入する予定	10	3.6	9	4.5	4	2.2	12	5.4	11	2.5	46	3.5
導入する予定はない	264	95.0	179	89.1	167	91.3	195	87.8	385	88.5	1,190	90.2
有効回答数	278	100.0	201	100.0	183	100.0	222	100.0	435	100.0	1,319	100.0
無効回答	0		1		0		0		0		1	
無回答	63		56		43		66		82		310	
合計	341		258		226		288		517		1,630	

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

- 参加型授業へのクリッカーの導入・活用状況について、「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」「すでに導入しているが参加型学習には活用していない」「今後、導入する予定」「導入する予定はない」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。
- 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。



表 60 参加型授業へのグループ学習室の導入・活用状況

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	7	2.4	6	2.9	5	2.7	10	4.3	23	5.2	51	3.8
導入済で活用している教員がいる	19	6.6	28	13.5	9	4.8	22	9.4	36	8.2	114	8.4
導入済だが、活用していない	15	5.2	6	2.9	5	2.7	14	6.0	10	2.3	50	3.7
導入する予定	9	3.1	15	7.2	12	6.4	10	4.3	20	4.6	66	4.9
導入する予定はない	238	82.6	152	73.4	156	83.4	177	76.0	350	79.7	1,073	79.2
有効回答数	288	100.0	207	100.0	187	100.0	233	100.0	439	100.0	1,354	100.0
無効回答	0		1		0		0		0		1	
無回答	53		50		39		55		78		275	
合計	341		258		226		288		517		1,630	

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

- 参加型授業へのグループ学習室の導入・活用状況について、「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」「すでに導入しているが参加型学習には活用していない」「今後、導入する予定」「導入する予定はない」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
- 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。

表 61 参加型授業へのデジタル教科書の導入・活用状況

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	0	0.0	2	1.0	4	2.1	7	3.0	24	5.5	37	2.7
導入済で活用している教員がいる	18	6.3	12	5.8	25	13.3	34	14.7	76	17.3	165	12.2
導入済だが、活用していない	7	2.4	7	3.4	18	9.6	18	7.8	26	5.9	76	5.6
導入する予定	31	10.8	32	15.5	17	9.0	30	12.9	46	10.5	156	11.5
導入する予定はない	231	80.5	153	74.3	124	66.0	143	61.6	268	60.9	919	67.9
有効回答数	287	100.0	206	100.0	188	100.0	232	100.0	440	100.0	1,353	100.0
無効回答	0		1		0		0		0		1	
無回答	54		51		38		56		77		276	
合計	341		258		226		288		517		1,630	

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

- 参加型授業へのデジタル教科書の導入・活用状況について、「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」「すでに導入しているが参加型学習には活用していない」「今後、導入する予定」「導入する予定はない」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
- 教科で参加型学習に取り組んでいない場合は、非該当とした。

## 12. 効果の実感の変化と各変数との相関

参加型授業の実施による昨年度からの効果の実感の変化について、どのような学校において変化が見られるのか検討した。

相関分析の結果、〈教科主任の働きかけ〉は  $r=.267\sim.454$  の正の相関が、〈教科主任の管理職への働きかけ〉は  $r=.199\sim.358$  の正の相関が、〈組織文化〉は  $r=.130\sim.274$  の正の相関があることがわかった。従って、教科において参加型授業の効果の実感を得るためには、教科として組織的に取り組むことが重要であり、組織的に取り組むために教科主任の働きかけが重要であることが示唆された。

また、校内研修の回数についてはあまり大きな相関は見られなかったが、「タブレット型コンピュータ(生徒用)」では  $r=.101\sim.176$  の正の相関が、「プロジェクタ」では  $r=.092\sim.135$  の正の相関が、「グループ学習室」では  $r=.080\sim.129$  の正の相関が見られた。かなり小さな関連性ではあるが、これらの学習環境の活用が効果と関連しているか、あるいは学習環境を積極的に取り入れようという姿勢が効果と関連している可能性があると考えられる。

表 62 効果の実感の変化に関する相関分析

		効果					
		思考・表現力	課題解決力	教科基礎力	協働性	主体性	市民性
教科主任の働きかけ	AL方針の明確化	.319	.329	.319	.267	.335	.335
	ALへの動機づけ	.410	.391	.412	.454	.400	.308
	教科でのチームづくり	.351	.326	.350	.388	.342	.309
	ALの質の点検	.384	.381	.380	.375	.372	.390
	学習機会の支援	.369	.371	.382	.377	.389	.376
	役職を越えた教師間コミュニケーション	.292	.291	.314	.332	.335	.319
管理職・教科主任の働きかけ	校外リソース獲得の促進	.214	.246	.236	.199	.229	.241
	ALへの組織的取組の促進	.272	.288	.298	.295	.285	.286
	学校のビジョン共有	.227	.243	.249	.219	.238	.274
	指導に関する参考資料収集の促進	.269	.291	.292	.265	.293	.306
	教師の仕事スリム化の促進	.258	.302	.278	.247	.295	.306
	校内での教師間連携の促進	.264	.275	.283	.267	.268	.287
	校外での学習の促進	.284	.328	.309	.263	.297	.358
組織文化	教師自身の成長意欲	.274	.245	.271	.242	.237	.240
	自律的な仕事環境	.145	.143	.154	.147	.144	.130
	教師間の支え合い	.190	.145	.178	.222	.158	.133
研修	ALに関する校内研修の回数	.076	.075	.079	.107	.089	.063
学習環境	タブレット型コンピュータ(生徒用)の活用	.074	.093	.086	.060	.057	.058
	インターネットに接続されたコンピュータ(生徒用)の活用	.174	.176	.120	.101	.113	.146
	実物投影機(書画カメラ)の活用	.074	.104	.072	.082	.078	.057
	プロジェクタの活用	.113	.135	.092	.110	.096	.107
	電子黒板の活用	.029	.027	.023	.053	.042	.023
	クリッカーの活用	.028	.020	.010	.002	.007	.034
	グループ学習室の活用	.094	.107	.118	.080	.111	.129
デジタル教科書の活用	.050	.033	.042	.044	.080	.013	

- (注) 1. 教科主任調査の結果による。  
2. 表中の数値は Pearson または Spearman の相関係数。

2017年1月4日 発行

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った  
参加型授業に関する実態調査 2016  
第一次報告書

編集・発行 東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室  
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

